令和７年度

成瀬ダム建設事業マネジメント委員会資料

１．成瀬ダム建設事業の概要・・・・・P. 1
２．前回委員会の意見と対応・・・・・P. 10
３．成瀬ダム建設事業の事業監理・・・P. 12
４．令和６年度事業実施状況・・・・・P. 43
５．令和７年度事業計画・・・・・・・P. 56

（※「不開示情報」を省いた構成にしております）

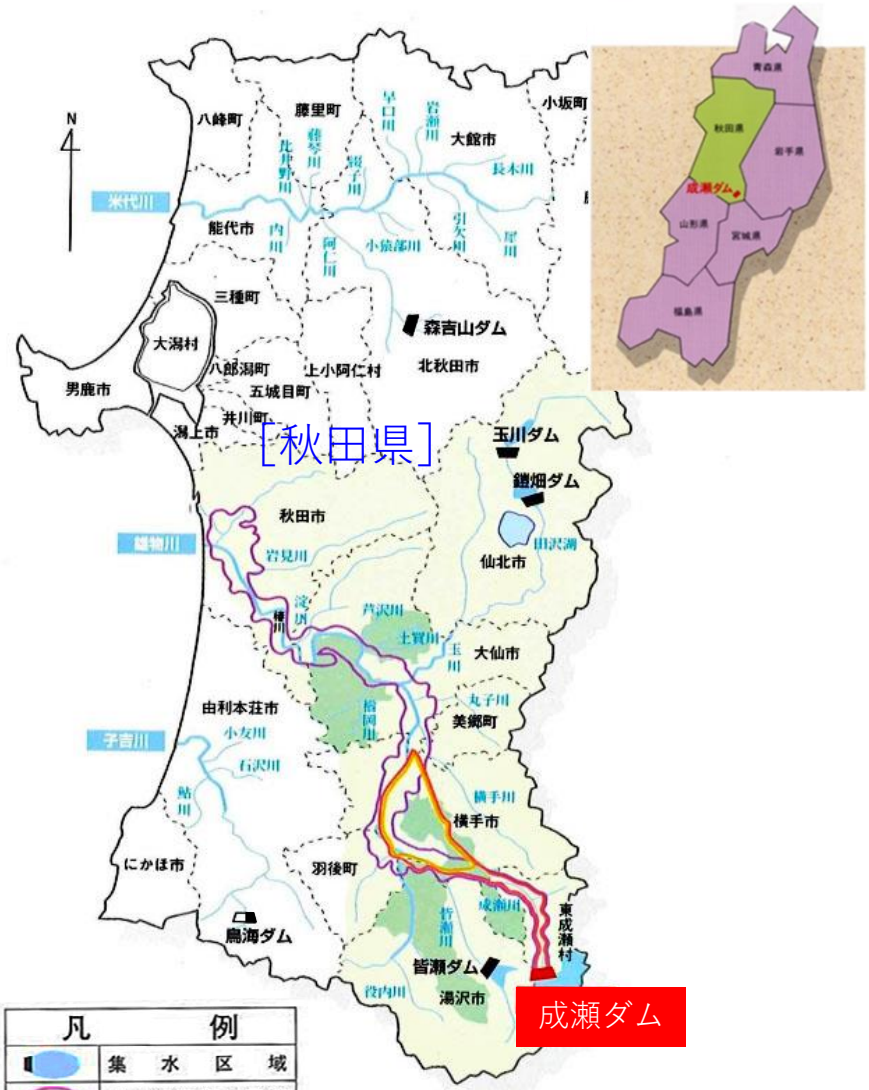
令和７年７月７日（月）

東北地方整備局　成瀬ダム工事事務所

１．成瀬ダム建設事業の概要

成瀬ダム建設事業の計画概要

■ 雄物川流域図



秋田県雄勝郡東成瀬村
（雄物川水系成瀬川）

事業費　　約2,600億円
工　期　　令和9年度

■ 成瀬ダムの目的

①洪水調節

成瀬ダムの建設される地点における計画高水流量460m³/s のうち、410m³/sの洪水調節を行います。

②流水の正常な機能の維持

成瀬ダム下流において　既得用水の補給や河川環境の機能維持と増進を図ります。

③かんがい

皆瀬川、成瀬川及び雄物川沿岸の平鹿平野地区約10,050ha の農地に対するかんがい用水の補給を行います。

④水道（湯沢市、横手市、大仙市）

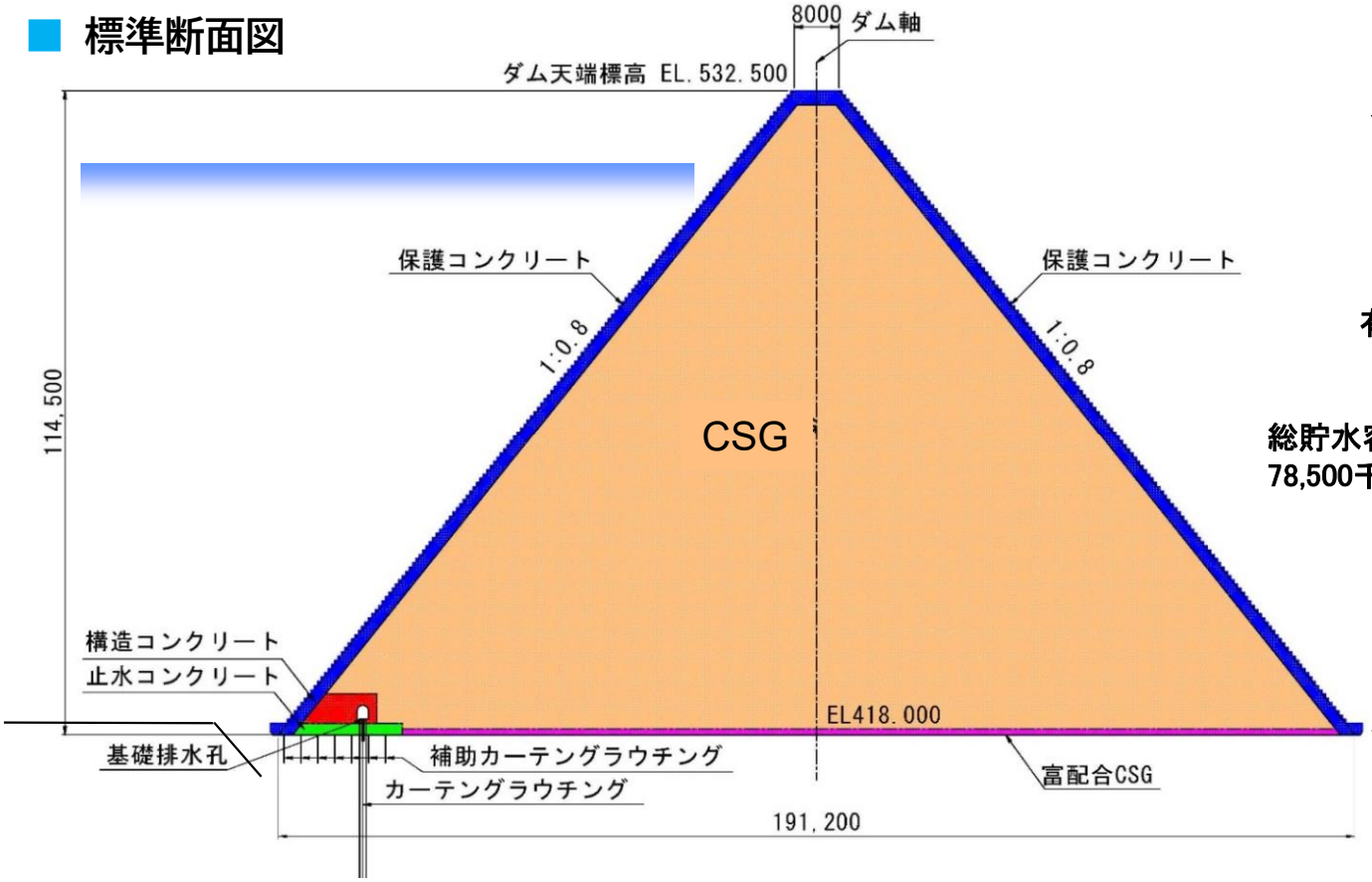
湯沢市、横手市、大仙市に対して、新たに1日最大13,164m³ の水道用水の取水を可能にします。

⑤発電（秋田県）

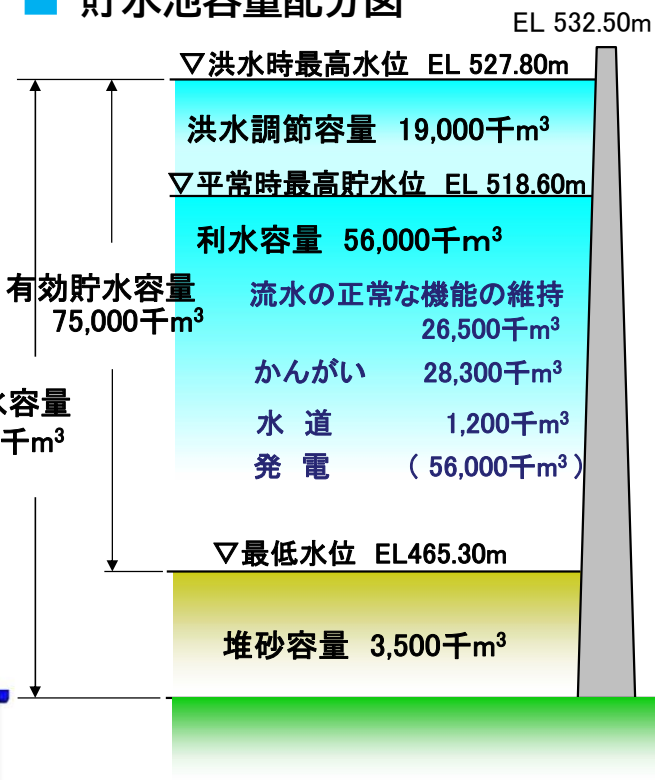
成瀬ダムの建設に伴って新設される成瀬発電所（仮称）において、最大出力5,800kwの水力発電を行います。

成瀬ダムの諸元

■ 標準断面図



■ 貯水池容量配分図



■ 成瀬ダムの諸元

施　設　名	成瀬ダム	備　考
ダ　ム　形　式	台形CSGダム※	
ダ　ム　高	114. 5m	台形CSGダムで日本一
堤　頂　長	755. 0m	台形CSGダムで日本一
堤　体　積	4, 850千m³	台形CSGダムで日本一
総 貯 水 容 量	78, 500千m³	台形CSGダムで日本一
湛　水　面　積	2. 26km²	
集　水　面　積	68. 1km²	

※台形CSGダム

台形CSGダムは、建設現場周辺で手近に得られる石や砂れきとセメント、水を混合してつくるCSG（Cemented Sand and Gravelの略）を使い、堤体の上流面と下流面が同じ勾配をもつ台形型に造るダム型式です。

この台形CSGダムは、日本で開発された比較的新しいダム形式です。

事業経緯

昭和58年	4月	実施計画調査開始（秋田県）
平成 3年	4月	国直轄事業に移行（現：湯沢河川国道事務所所管）
平成 9年	4月	建設事業着手
平成13年	5月	基本計画官報告示（H13.5.29：国土交通省第887号）事業費：1,530億円　工期：平成29年度
平成13年	10月	下流工事用道路工事着手 ※岩井川地区L=3.28km
平成15年	3月	用地補償基準妥結
平成17年	3月	付替国道342号工事着手
平成20年	1月	「雄物川水系河川整備基本方針」策定（H20.1.28）
平成21年	3月	仮排水トンネル　着手
平成21年	12月	下流工事用道路完成（供用開始）
平成21年	12月	検証の対象となるダム事業に選定
平成24年	4月	付替国道342号一次供用区間開通
平成24年	8月	仮排水トンネル　完成
平成25年	1月	ダム検証に係る対応方針決定（継続）　（H25.1.25）
平成26年	3月	基本計画（第1回変更）告示（H26.3.12：国土交通省第304号）事業費：1,530億円　工期：平成36年度
平成26年	4月	成瀬ダム工事事務所　開所
平成26年	11月	「雄物川水系河川整備計画」策定（H26.11.28）
平成29年	3月	新事務所庁舎開所（H29.3.23）
平成29年	4月	「雄物川水系河川整備計画」変更（H29.4 13）　※ダム型式変更
平成29年	9月	基本計画（第2回変更）告示（H29.9.12：国土交通省第822号）　※ダム型式変更（ロックフィルダム→台形ＣＳＧダム）
平成30年	3月	仮排水トンネルへ転流開始　（H30.3.26転流式）
平成30年	9月	ダム本体工事着工（H30.9.15着工式）
令和元年	10月	ダム堤体打設開始（R1.10.15初打設式）
令和3年	9月	基本計画（第3回変更）告示（R3.9.10：国土交通省第1255号）事業費：2,230億円　工期：令和8年度
令和4年	5月	定礎式（R4.5.14）
令和5年	4月	付替国道342号全線開通式（R5.4.29）
令和6年	8月	基本計画（第4回変更）告示（R6.8.27：国土交通省第1113号）事業費：2,600億円　工期：令和9年度
令和6年	11月	ダム堤体CSG打設完了（R6.11.20：CSG打設完了式）

CSG打設完了式（令和6年11月20日）

国土交通省　東北地方整備局
成瀬ダム工事事務所

○ 成瀬ダムは平成３０年９月に本体工事に着工し、工事を進め、１１月２０日に主構造であるＣＳＧの打設が完了。
○ 令和７年度も堤体コンクリートの打設は継続するが、工事の節目であることから「成瀬ダム堤体打設工事ＣＳＧ打設完了式」を関係者出席のもと開催。※ＣＳＧ打設は令和2年6月から開始しＣＳＧ総打設量は約430万㎥。

■ 開催日時　令和６年１１月２０日（水）１４時 ～１４時３０分
■ 実施場所　成瀬ダム右岸天端
■ 主　　催　鹿島・前田・竹中土木特定建設工事共同体
■ 出 席 者　東成瀬村、成瀬ダム工事事務所、関係機関
（大仙市・横手市・湯沢市・雄物川筋土地改良区・
秋田県雄勝地域振興局・秋田県公営企業課）
ＪＶ、協力会社　　合計２６６名

■ 記念行事　イベントで参加者作成のメモリアルストーン敷設
■ 式典次第
①挨拶　　：成瀬ダム工事事務所長　安部 剛
②打設合図：堤体ＪＶ　工事課長代理 伊澤 拓郎
③ダンプ・ブルドーザーによる打設
④万歳三唱：東成瀬村副村長 谷藤 登
⑤全体記念撮影

○式典



①挨拶（安部所長）



②打設合図





③ダンプ・ブルドーザーによる打設



④万歳三唱（谷藤副村長）

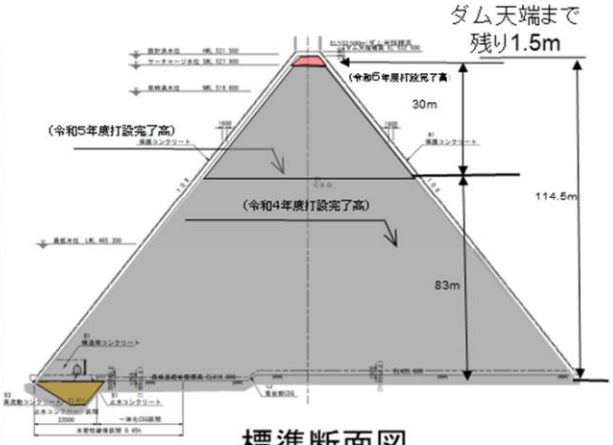


⑤全体記念撮影

○記念行事



メモリアルストーンの敷設



標準断面図

成瀬ダム完成イメージ


ざるもり
笊森
（標高1,356m）
くりこまやま
栗駒山（標高1,626m）
まぐさだけ
秣岳
（標高1,424m）
すかわこうげんおんせん
須川高原温泉
くりこまさんそう
栗駒山荘
ころげやま
狐狼化山
国道342号
あかたきおおはし
赤滝大橋
（L=156m）
あかがわ
赤川
ころげやま
狐狼化山トンネル
（L=1,800m）
とくさざわがわ
木賊沢川
きたのまたさわがわ
北俣沢川
ゆめせんにんおおはし
夢仙人大橋
（L=342m）
成瀬ダム
ゆめせんにん
夢仙人 トンネル
（L=1,543m）
なるせがわ
成瀬川

成瀬ダム施工状況写真①



令和6年11月27日撮影

成瀬ダム施工状況写真②

◆ダムサイト左岸を望む



令和6年11月27日撮影

成瀬ダム施工状況写真③

◆ダムサイト右岸を望む



令和6年11月27日撮影

２．前回委員会の意見と対応

前回委員会（R6.5.10）の意見と対応

	意　見	対　応
令和５年度事業実施状況について	令和5年度は予定された事業が計画どおりに実施していることを確認した。	－
令和６年度事業計画について	令和６年度に予定されている事業計画と現在までの事業実施状況を確認した。	－
事業監理について	引き続き、受発注者一体となり、安全・品質を確保したうえで、さらなるコスト縮減に努めるとともに、事業監理を徹底し計画どおり事業を進めること。	「コスト縮減推進ミーティング」や「施工ＪＶ等との工事調整会議」を開催し、民間技術力の積極的な活用を図る等、コスト縮減に努めた。 また、品質確保の取り組みとして、「ＣＳＧ施工技術委員会」を開催し、本体工事の施工状況、確認試験実施状況、品質管理記録等について説明を行い、助言をいただいた。
	ＤＸ、人材育成、広報、環境保全の取り組みを継続するとともに、将来の管理に向け、成瀬ダム及びその周辺の特徴に合った地域活性化の取り組みを実施することが望ましい。	自動化施工の継続や監督行為の合理化等の先進技術（DX）を活用し、品質の確保と合理化を図った。 また、ダムを活用した地域活性化の取り組みとして、ダムツアーや上下流交流会、成瀬の森づくり等を実施した。
	成瀬ダムで得た技術やコスト縮減の取り組みなどを後発のダム等でも活かしていただきたい。	後発のダムでも成瀬ダムで得た技術やコスト縮減の取り組みについて、活用していただけるよう結果を整理し取り纏めを行う。

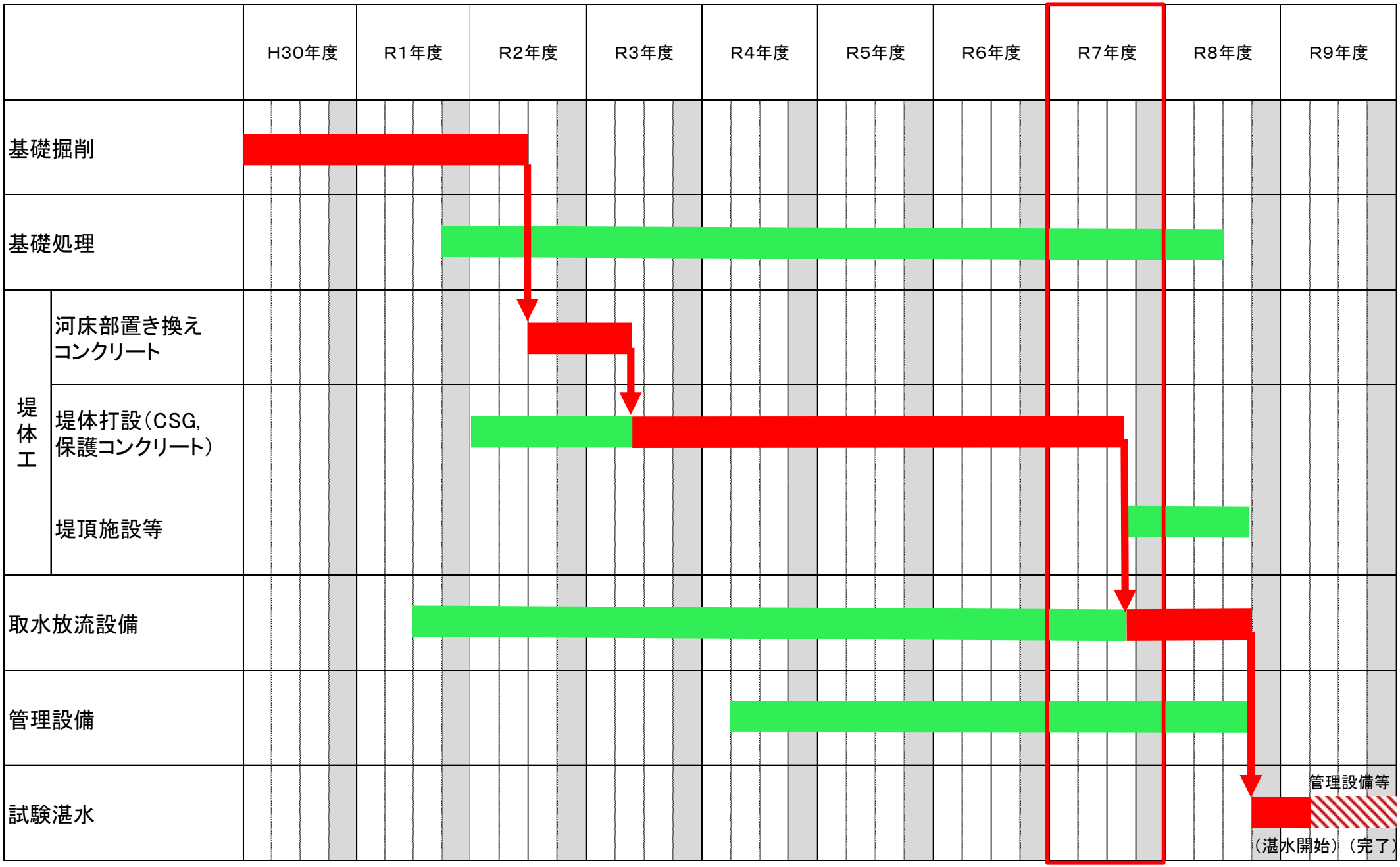
３．成瀬ダム建設事業の事業監理

成瀬ダム　全体事業工程

国土交通省　東北地方整備局
成瀬ダム工事事務所

令和9年度（2027年度）完成予定

（令和7年4月30日時点）



※矢印は、クリティカルパスを示す。

コスト縮減【コスト縮減推進室の設置】

成瀬ダムコスト縮減推進室規約

（名称）
第１条　本組織は、成瀬ダムコスト縮減推進室（以下「推進室」という。）と称する。

（目的）
第２条　推進室は、安全と品質の確保を最優先に、下記目標の達成に向けた継続的かつ実効性あるコスト縮減活動を推進するため、必要な検討、調整等を行うことを目的とする。
【数値目標：事業費の約5%】
※ライフサイクルコスト（LCC）低減の取り組みを含む全体の縮減目標とする。

（検討・調整事項）
第３条　推進室は、前条の目的を達成するため、次に掲げる内容を検討、調整する。
（１）所内の役割と責任を明確化し、情報の共有と対応レスポンスの向上を図る。
（２）[計画・設計」、「施工」、「維持管理」等の各分野におけるコスト縮減項目の把握・分析を行う。
（３）検討の進捗状況等について、PDCAサイクルにより継続的かつ定期的にフォローアップを実施し、必要に応じ見直しを図る。
（４）設計コンサルタントや施工JVとのコスト縮減意識の共有と醸成を図り、民間技術力の積極的活用を図る。
（５）成瀬ダム建設事業マネジメント委員会に目標に対する取り組み内容及び進捗状況を報告し、その結果を公表する。
（６）その他目的達成に必要な事項。

（組織）
第４条　推進室は下記に掲げる職員により構成する。
２　成瀬ダム工事事務所　建設専門官、専門調査官、建設監督官、課長、専門官、係長

（室長及び職務代理）
第５条　推進室に室長を置く。
２　室長は成瀬ダム工事事務所副所長（技術）をもって充てる。
３　室長は推進室を代表し、室務を総理する。
４　室長が出席できないときは、室長があらかじめ指名したものがその職務を代理する。

（任期）
第６条　職員の任期は、推進室が存続する期間とする。
２　異動等に伴う職員の変更は、特別な理由がある場合を除き、前任者から引き継ぐものとする。

（事務局）
第７条　推進室の事務局は、建設専門官（工務課）に置く。

（ミーティング）
第８条　推進室のミーティングは、室長が招集する。
２　第１項にかかわらず、室長が認める場合、職員を招集せず、書面による開催とすることができる。
３　室長が必要と認める場合は、職員以外の出席を求め、意見を聞くことができる。

（その他）
第９条　この規約に定めるもののほか、必要な事項は、室長が職員に諮って定める。ただし、軽微な内容のものは、室長が定めることができる

附則　　この規約は、令和3年8月20日から施行する。

コスト縮減【コスト縮減ミーティング】

成瀬ダムコスト縮減に関する行動指針

1．基本的事項
・事業の全プロセス、全項目を対象に、品質と安全以外の聖域を設けず、コスト縮減の観点からの点検を実施。
・点検の結果、金額の大小によらず縮減可能な項目は全て見直す。
・業務、工事の増工額100万円以上について、所内変更伺いの徹底
・業務、工事の施工承認時にコスト縮減検討内容を説明。

2．点検の視点
・上記基本的事項に基づき、下記視点からの点検を実施し、コスト縮減を検討。

調査
計画
設計
積算
施工
管理
LCC

(1)調査・計画にさらなる見直しの余地はないか？
(2)求められる性能に対し、過大なものとなっていないか？
(3)真に必要な機能に限定しているか？(「あれば便利」はいらない)
(4)過剰な品質・安全(オーバークオリティ)になっていないか？
(5)景観デザインを優先しすぎてコスト高を招いていないか？
(6)施工歩掛り、資材等単価見積りの妥当性をチェックしているか？
(7)工法比較を適正に行っているか？
(8)施工計画にさらなる工夫の余地はないか？

3．民間技術力の活用
・設計コンサルタントや施工JVとの対話を通じたコスト意識の共有と醸成。
・プロポーザルの技術提案におけるコスト縮減に資するテーマ設定や業務、工事における三者会議の活性化等、民間技術力を引き出す取り組みの充実。

4．フォローアップ
・「コスト縮減推進会議」を設置し、関係者間で取り組み内容と進捗状況等を共有、PDCAサイクルによる見直し、フォローアップ等継続的監理の実施。
・成瀬ダム建設事業マネジメント委員会において、目標に対する取り組み状況の報告、結果の公表。

〇コスト縮減に関する事務所統一指針を策定し、事業の全プロセス、全項目を対象にコスト縮減の観点からの点検を実施。
〇関係者に周知徹底を図り、推進室を中心とするPDCAサイクルによる監理により取り組みの実効性を確保。

【コスト縮減推進ミーティング】

■　目的
- 所内の役割と責任を明確化し、情報の共有と対応レスポンスの向上を図る。
- 「計画・設計」、「施工」、「維持管理」等の各分野におけるコスト縮減項目の把握・分析を行う。
- 関係者間で取り組み内容と進捗状況等を確認、PDCAサイクルによる見直しを図り、フォローアップ等による継続的監理を実施する。

■　開催状況
- 第１回ミーティング（R3.8.20）
- 第２回ミーティング（R3.12.8）
- 【書面】ミーティング（R4.3.18）
- 第３回ミーティング（R4.6.9）
- 第４回ミーティング（R4.9.14）
- 第５回ミーティング（R4.12.1）
- 第６回ミーティング（R5.2.2）
- 第７回ミーティング（R5.3.14）
- 第８回ミーティング（R5.12.7）
- 第９回ミーティング（R6.2.21）
- 第10回ミーティング（R6.4.10）
- 第11回ミーティング（R6.7.19）
- 第12回ミーティング（R6.11.6）
- 第13回ミーティング（R7.2.27）



第13回開催状況

【施工JV等との技術的対話】民間技術力を引き出す取組み

■　目的
- 設計コンサルタントや施工JVとのコスト縮減意識の共有と醸成を図り、民間技術力の積極的活用を図る。
- プロポーザルの技術提案におけるコスト縮減に資するテーマ設定や、業務、工事における三者会議の活性化等、民間技術力を引き出す取り組みの充実を図る。

■　開催状況
- 工事調整会議（R3.9.27）
- 工事調整会議（R3.12.21）
- 工事調整会議（R4.4.11）
- 工事調整会議（R4.7.6）
- 工事調整会議（R4.12.20）
- 工事調整会議（R5.4.19）
- 工事調整会議（R5.12.18）
- 工事調整会議（R6.6.7）
- 工事調整会議（R6.12.11）


開催状況（令和6年6月7日）

コスト縮減【これまで報告済み項目一覧】

種別	検討項目
堤体工事	・粗掘削後の岩盤清掃の機械化施工 ・モルタル仮吹付範囲の見直し ・工事用道路における盛土施工仕様の見直し ・ロックボルト頭部キャップの材料見直し ・左岸ゆるみ頭部排土標高の見直し ・右岸段丘部の基礎掘削標高の見直し ・原石山掘削形状の見直し ・付替林道における雪崩防護柵の削減 ・コンソリデーショングラウチングの省略 ・転流工締切表面構造の見直しによる減 ・右岸段丘部の基礎掘削標高の見直しによる減 ・岩盤面処理の機械化施工による減 ・コンソリデーショングラウチングの省略による減

種別	検討項目
堤体工事	・管理者との協議により林道の補償延長見直しによる減 ・左岸上流掘削形状の見直し（盤上げ） ・岩盤スケッチの作業性向上 ・エレベーターの配置見直し ・堤体変形計測方法の見直し ・材料使用計画を踏まえた堤体配合区分の見直し ・造成岩盤置換コンクリートの供給方法見直し ・右岸リム部のカーテングラウチング計画の見直し ・地すべりアンカーの設計見直し ・仮設運搬路の残置（堤体下流） ・堤体下流右岸のバックフィル(工事進入路)の残置 ・仮設運搬路の残置（堤体上流） ・堤体下流排水工（排水材）の見直し ・エレベータシャフト廻りの配合見直し 27件

コスト縮減【これまで報告済み項目一覧】

種別	検討項目
付替国道	・トンネル円形側溝へのスリップフォーム工法採用によるコスト縮減 ・トンネル照明の選定に伴うコスト縮減 ・トンネル坑口部の掘削方法見直し ・トンネルの掘削工法の見直しによる減 ・狐狼化山トンネルの埋設物鞘管条数の見直し ・狐狼化山トンネル照明器具、配線取付金物を見直し ・狐狼化山トンネル警報表示板を従来型から薄型へ見直し 7件
管理設備	・東成瀬村との調整によるコスト縮減 ・管理庁舎内発動発電機を発電機盤搭載型へ見直し ・管理庁舎設計の見直し ・管理庁舎内無停電電源設備において長寿命MSE形蓄電池を採用 ・監査廊の照明においてLED光源を採用 ・狐狼化山トンネルの照明においてLEDを採用 ・管理庁舎（1階）コンクリート打放し壁面の使用型枠の見直し 7件

種別	検討項目
工事用道路	・カゴマットへの現地発生材の利用によるコスト縮減 ・伐採木のチップ化による植生基材への利用によるコスト縮減 2件
工事事務所庁舎	・新庁舎の施設見直しによるコスト縮減 ・庁舎駐車場の舗装構成見直しによるコスト縮減 2件
原石山工事	・材料ストック計画見直し ・材料品質の迅速判定技術による材料採取の合理化 2件
上流迂回路	・法面植生工の客土吹付工法採用によるコスト縮減 1件
付替林道	・林道付替道路の計画見直しによるコスト縮減 1件
仮締切工	・仮締切工の締切表面の構造見直しによりコスト縮減 1件
埋蔵文化財発掘調査	・埋蔵文化財調査にかかる調査対象遺跡の変更 1件

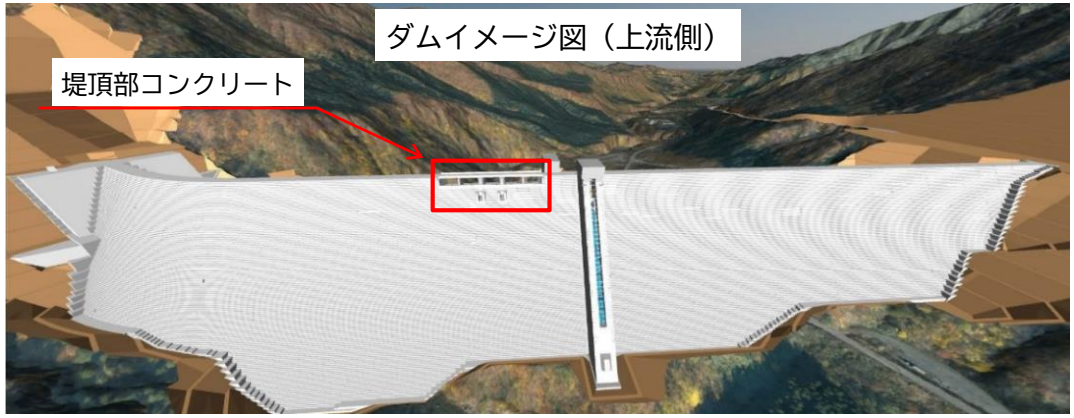
コスト縮減【新たに適用可能となった項目一覧】

番号	種別	区分			検討項目	検討内容	縮減額（百万円）
		段階	コスト	工程			
①	堤体工事	施工	○	○	堤頂部コンクリート打設の仮設計画見直し	・堤頂部の施工にあたり、現計画では堤体中標高部に設けた仮設構台にクレーンを配置する計画としているが、成瀬ダムの上下流面は階段状となることを利用し、スライド式タワークレーンを用いて仮設構台を省略する施工計画に変更した。	16
②	堤体工事	施工	○		堤体(CSG部)越冬養生の覆土厚の見直し	・堤体CSGの越冬養生の覆土厚を見直したことにより、覆土設置・撤去の施工費を縮減。	37
③	堤体打設	設計	○		下流部及び天端部保護コン設計厚の見直し	・当初、下流保護コン厚は1．6mだったが、施工性及び解析の結果1．0mに変更した。 ・当初、CSG最終リフトはEL530．250(上3リフト)だったが、再検討し、EL531．000(上2リフト)で施工上・構造上問題ないことを確認し変更した。	550
④	貯水池整備	計画	○		貯水池伐採を公募による施工に見直し	・ダム管理に支障となる樹木について、公募により希望する企業に伐採してもらい、その樹木を提供することで伐採費用の縮減と伐採木の有効利用を図る。	460
⑤	原石山工事	計画	○		原石山法面保護工の見直し	・原石山採取計画を見直したことにより、法面保護工範囲を削減。	250
⑥	管理用道路	設計	○		夢仙人大橋終点部の一次供用区間拡幅の擁壁構造の見直し	・補強土壁を既設大型ブロックを活用した擁壁構造に変更したことで大規模な仮設工が不要となり縮減。	26
⑦	原石山工事	施工	○		段丘材の有効利用について	・堤体進入路造成に使用する材料を赤滝ストックヤード造成時に使用された段丘オーバー材などを利用することで運搬費を削減。	29
⑧	堤体工事	施工	○		規格外フライアッシュの有効活用	・普通ポルトランドセメントの一部代替品として規格外フライアッシュを使用することにより、セメント量を減らすことができコスト縮減。	6
合計							1,374

コスト縮減（新たに適用可能となった項目①）

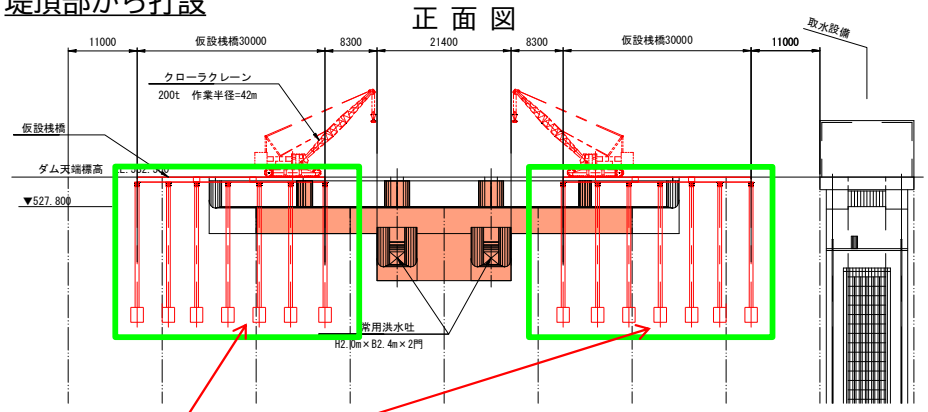
●堤頂部コンクリート打設の仮設計画見直し【縮減見込額　約１６百万円】

- 工期短縮を目的として、仮設構台からタワークレーンへの見直しを実施。洪水吐き打設の他、取水塔打設にも使用することで同時並行で施工できるため工期短縮による削減。



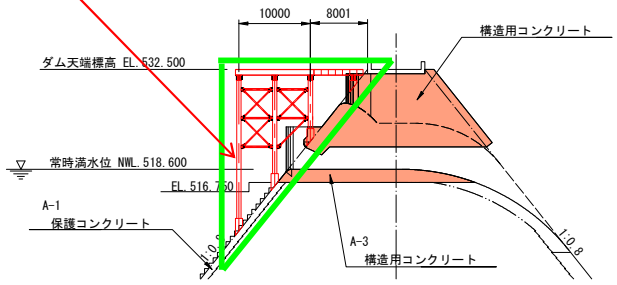
堤頂部から打設

正 面 図



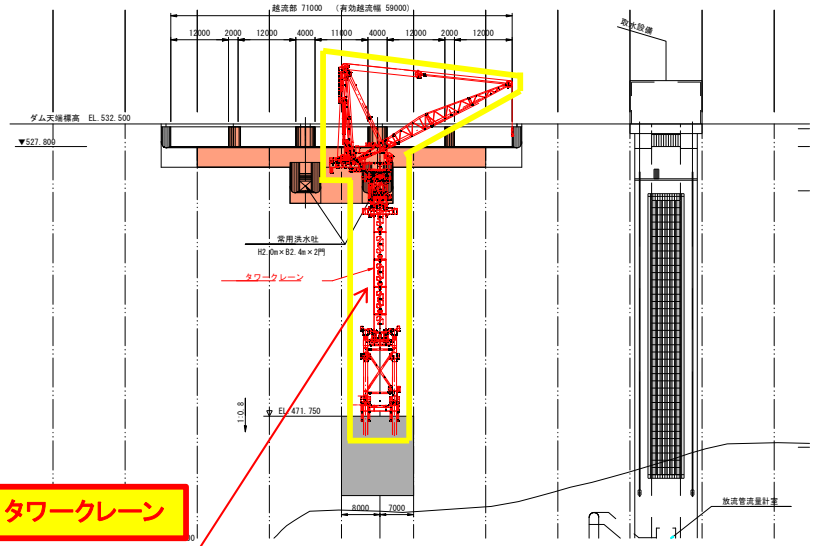
仮設桟橋

断 面 図（常用洪水吐き部）



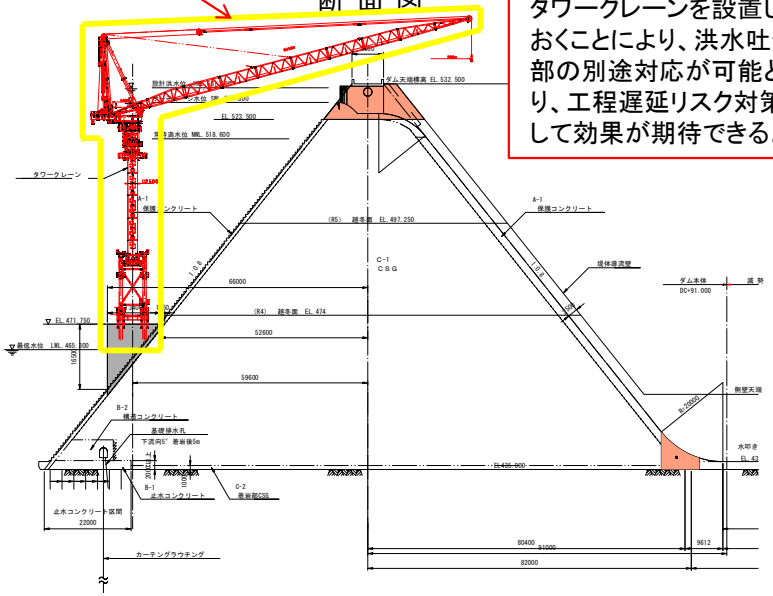
タワークレーン打設

正 面 図



タワークレーン

断 面 図

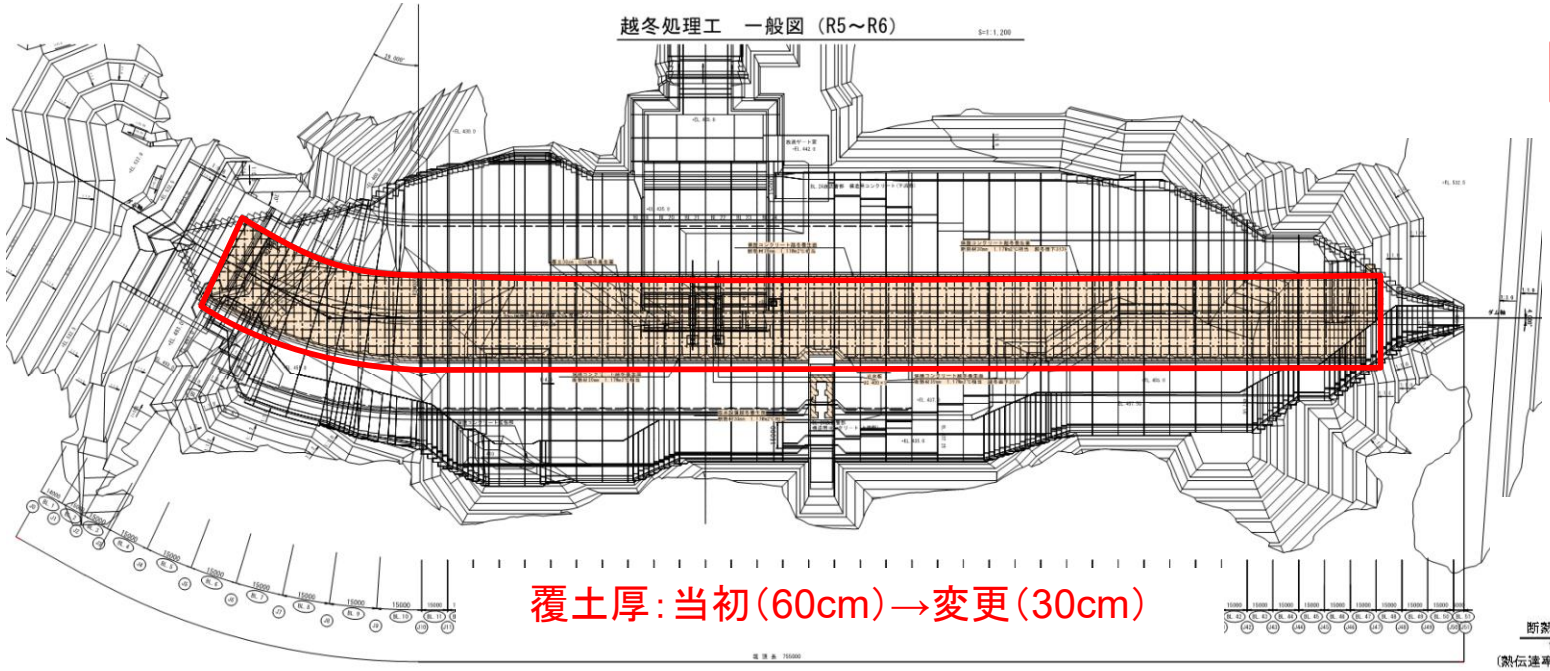


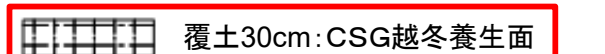
タワークレーンを設置しておくことにより、洪水吐き部の別途対応が可能となり、工程遅延リスク対策として効果が期待できる。

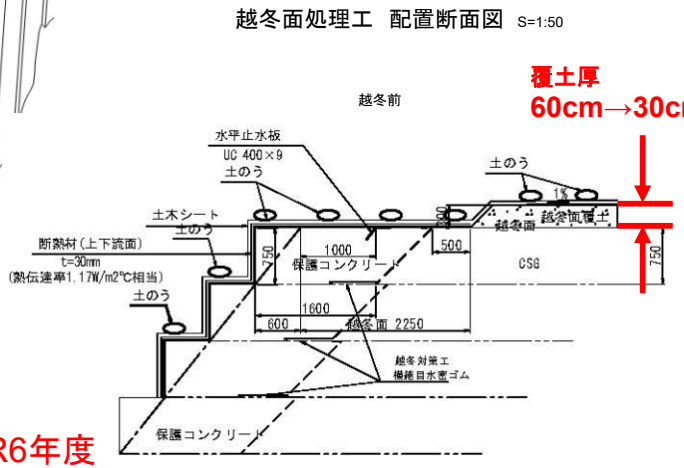
コスト縮減（新たに適用可能となった項目②）

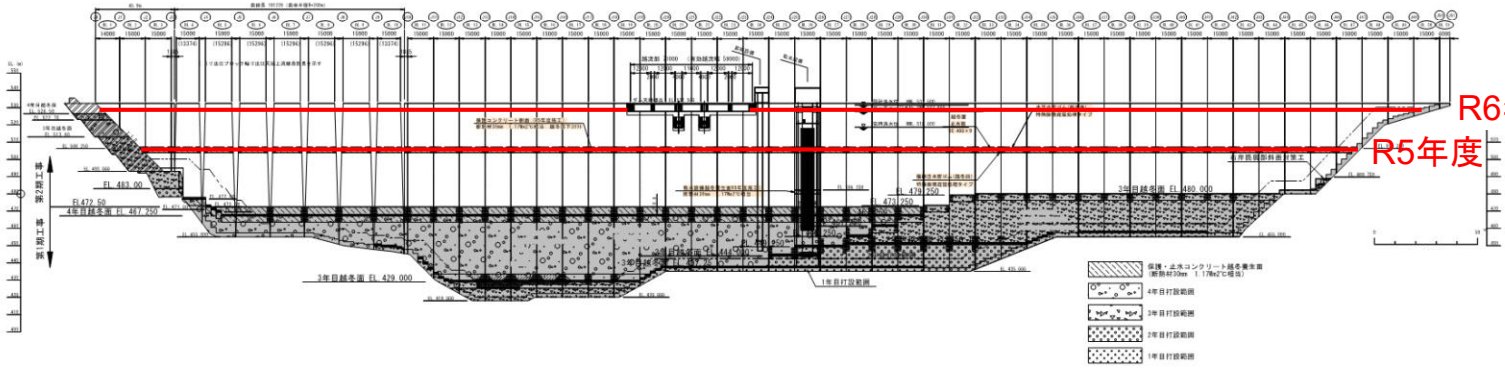
●堤体（CSG部）越冬養生覆土厚の見直し【縮減見込額　約３７百万円】

- 堤体CSGの越冬養生覆土厚を見直したことにより、覆土設置・撤去の施工費を縮減。









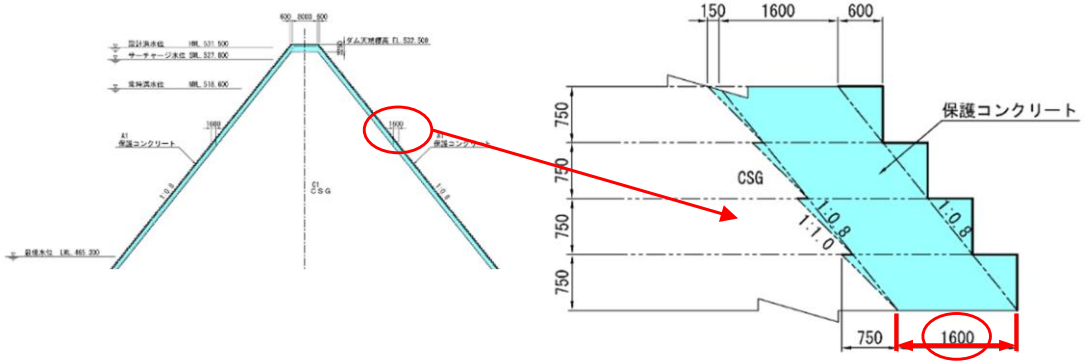
当初、覆土厚は温度応力解析から60cmとしていたが、R4年度に30cm・45cm・60cmで確認試験を実施し、結果30cmに見直ししても、打設面の温度が0℃を下回らないため、覆土厚を変更した。

コスト縮減（新たに適用可能となった項目③）

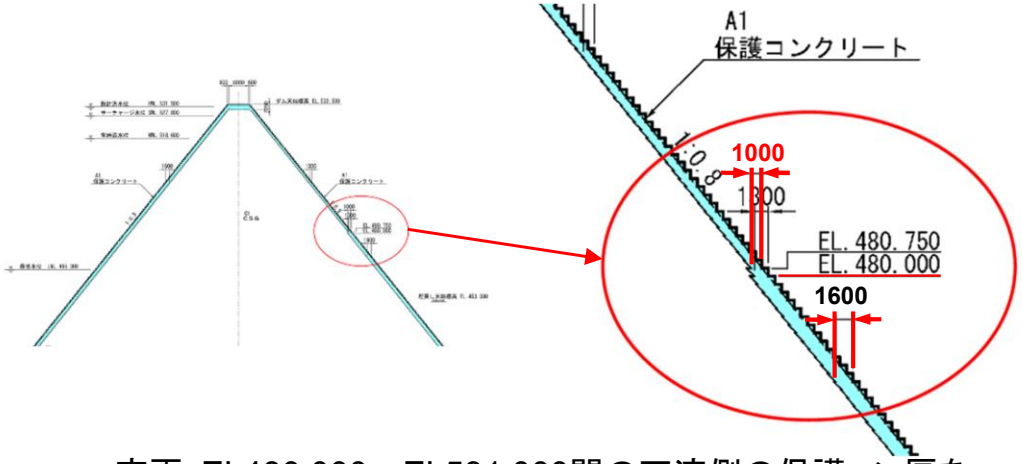
●下流部及び天端部保護コン厚設計の見直し【縮減見込額　約５５０百万円】

- 当初下流保護コン厚は1.6mだったが、再検討し、解析の結果1.0mでも問題ないことが確認できたため、変更した
- 当初CSG最終リフトはEL.530.250だったが、再検討し、EL531.000で施工上・構造上問題ないことが確認できたため、変更した。

○下流保護コン厚変更

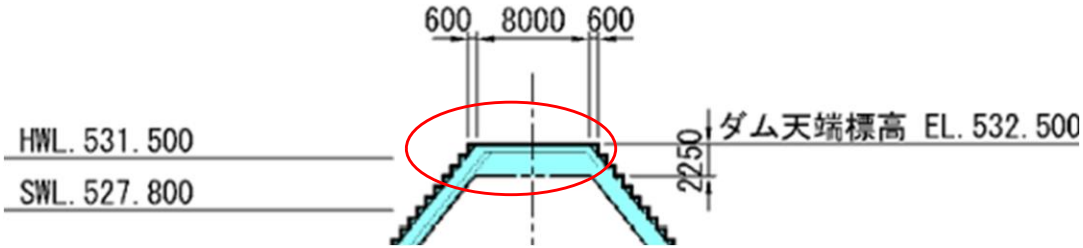


当初：下流側保護コン厚1.6m

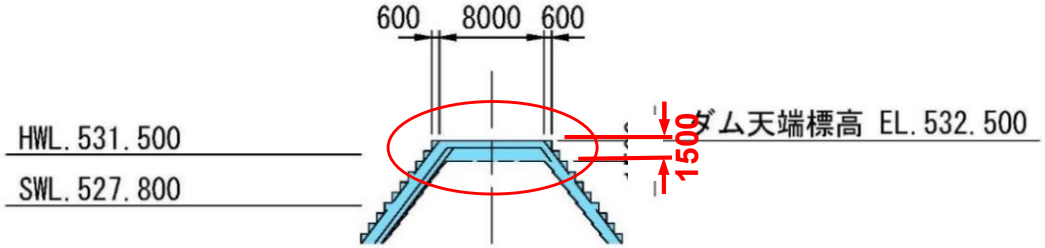


変更：EL480.000～EL531.000間の下流側の保護コン厚を1.6m→1.0mに変更。

○天端保護コン厚の変更



当初：CSG最終打設がEL.530.250（上3リフト）



○変更：CSG最終打設をEL.531.000（上2リフト）に変更

コスト縮減（新たに適用可能となった項目④）

●貯水池伐採を公募による施工に見直し【縮減見込額　460百万円減】

- ダム管理に支障となる樹木について、公募により希望する企業に伐採してもらい、その樹木を提供することで伐採費用の縮減と伐採木の有効利用を図る。

○**成瀬ダム工事事務所**では、林業者を対象に成瀬ダム貯水池予定箇所の樹木伐採に協力してもらえる企業を公募。
○公募の結果、４者の企業より応募があり全箇所において公募伐採を行うこととなる。

・対象箇所（５箇所）の特定企業
①有限会社　丸充製材所（羽後町）
②雄勝広域森林組合（湯沢市）
③合資会社　鈴木林業（東成瀬村）
④雄勝広域森林組合（湯沢市）
⑤株式会社　東林業（東成瀬村）

・公募伐採スケジュール
①令和６年　９月２５日：記者発表（公募開始）
②令和６年１０月１８日：応募期間終了
③令和６年１０月３０日：特定通知
・特定企業にヒアリングの結果、伐採は令和７年６月より開始

令和　６年　９月２５日
国土交通省東北地方整備局
成瀬ダム工事事務所

「建設ダムとしては東北初の試み！」

樹木伐採者を公募します

～ コスト縮減と伐採木の有効活用を図ります ～

成瀬ダム工事事務所では、**林業者を対象に成瀬ダム貯水池予定箇所の樹木伐採に協力してもらえる企業（単独の企業又は複数の企業からなるグループ）を公募**いたします。
ダム完成後のダム管理に支障となる樹木について、公募により希望する企業に伐採してもらい、**伐採費用の縮減と伐採木の有効活用**を図ります。
※伐採にあたっては、河川法の許可を申請していただく必要があります。

≪概　要≫
【伐採対象箇所】　全５箇所（添付：別紙１の通り）
・秋田県雄勝郡東成瀬村椿川字仁郷地内（成瀬ダム貯水池予定箇所）

【伐採工期】
・許可された日 ～ 令和８年１０月３０日（金） まで

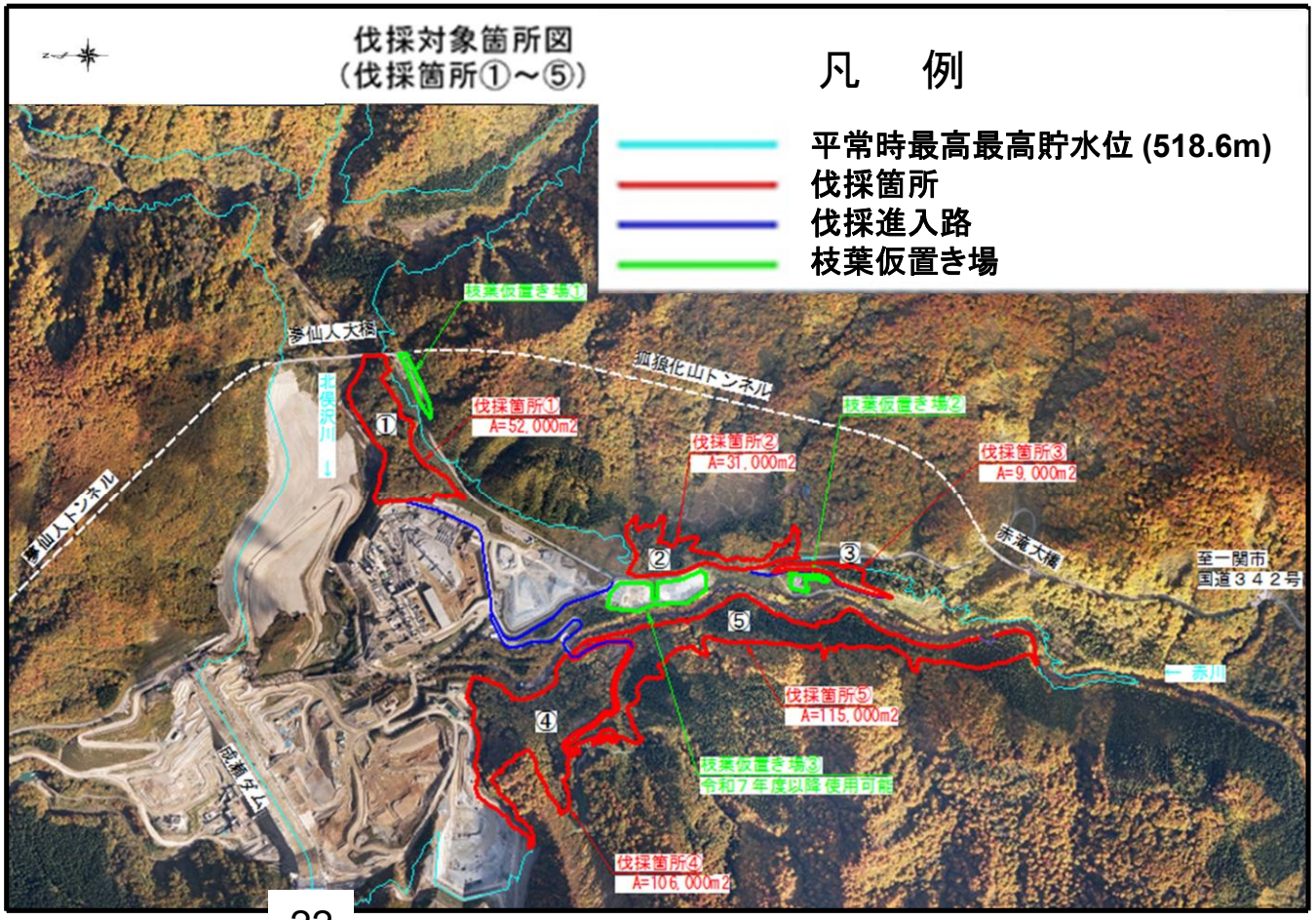
【応募期間】
・令和６年９月２５日（水） ～ 令和６年１０月１８日（金） まで

【応募資格等】
・成瀬ダム工事事務所のホームページに掲載されている公募説明書をご確認願います。
URL ： https://www.thr.mlit.go.jp/narusedam/

【応募方法】
・公募説明書（応募様式）をご確認の上、所定の応募様式に必要事項を記載の上、郵送もしくはご持参願います。

発表記者会：秋田県政記者会、横手記者会、秋田魁新報社大曲支局・湯沢支局
日刊秋田建設工業新聞、建設新聞社秋田支局

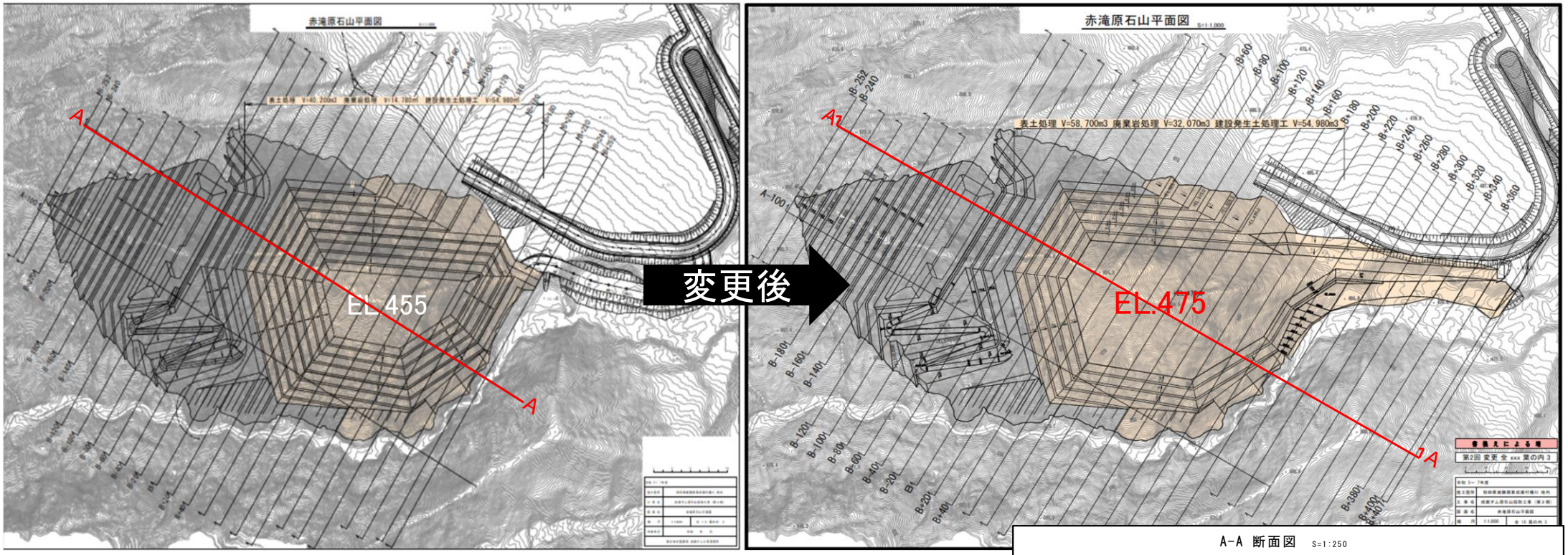
問い合わせ先
国土交通省　東北地方整備局　成瀬ダム工事事務所
〒019-0801　秋田県雄勝郡東成瀬村田子内字宮田９７－１
電話番号：０１８２－２３－８４５０（代表）
副 所 長　菅原（すがわら）　崇之（たかゆき）　（内線２０４）



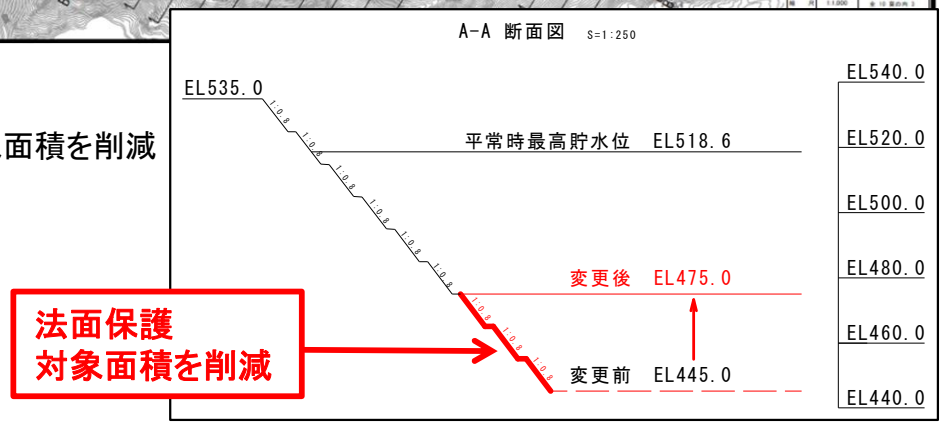
コスト縮減（新たに適用可能となった項目⑤）

●原石山法面保護工の見直し【縮減見込額　約２５０百万円】

- 原石山採取計画を見直したことにより、法面保護工範囲を削減



当初採取標高がEL.455であったが、EL.475で必要採取量が確保可能となり、法面保護対象面積を削減



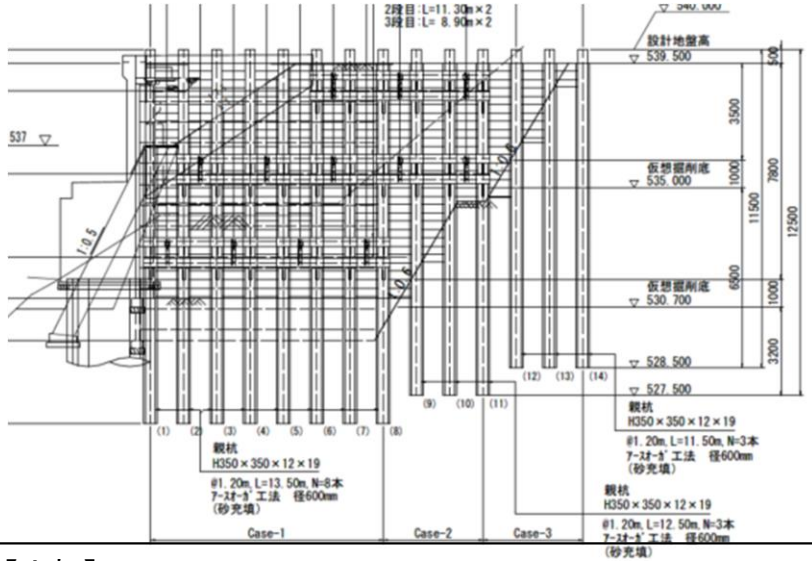
コスト縮減（新たに適用可能となった項目⑥）

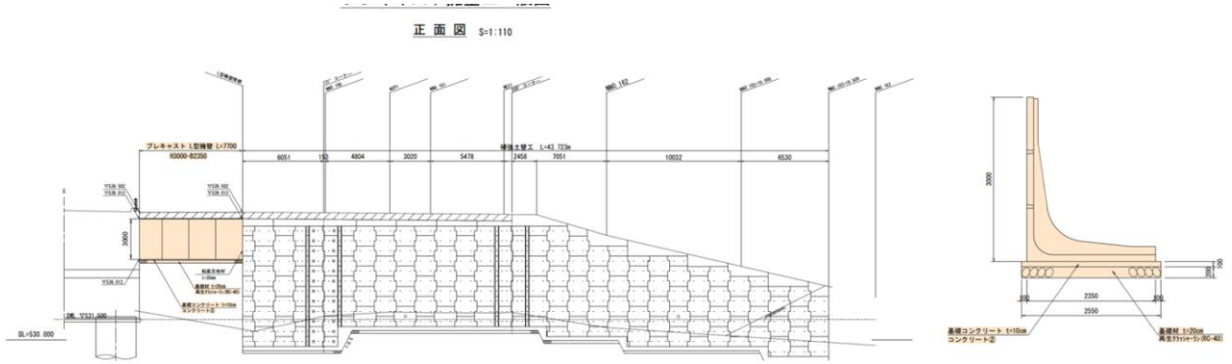
●夢仙人大橋終点部の一次供用区間拡幅の擁壁構造の見直し【縮減見込額　約２６百万円】

- 補強土壁を既設大型ブロックを活用した擁壁構造に変更したことで大規模な仮設工が不要となり縮減出来た。









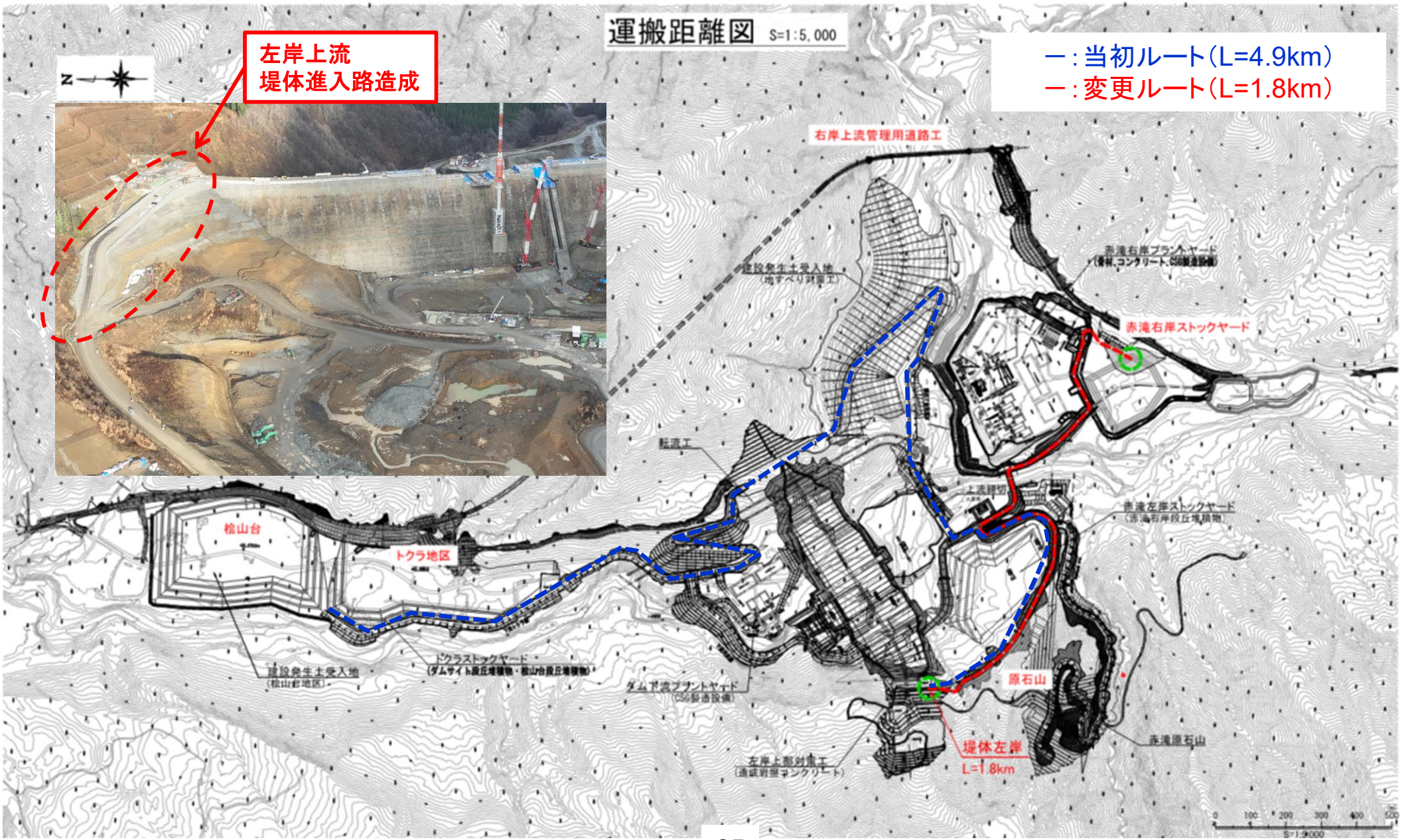
【当初】
橋台からの盛土材の盛りこぼし措置として、大規模な矢板構造の仮設が必要であった。

【変更】
既設大型ブロックを一部活用し、L型擁壁構造とすることで大規模な仮設が不要となった。

コスト縮減（新たに適用可能となった項目⑦）

●段丘材の有効利用について【縮減見込額　約２９百万円】

- 提体進入路造成に使用する材料を、赤滝右岸ストックヤード造成時に使用された段丘オーバー材などを利用することで運搬費を削減。



コスト縮減（新たに適用可能となった項目⑧）

●規格外フライアッシュの有効活用【縮減見込額　約６百万円】

- 火力発電所から発生するフライアッシュは、再生資源として有効利用が進まず、その多くは産廃処理されている。この状況を踏まえ、秋田県や、国土交通省では、フライアッシュの有効活用を推進している。フライアッシュは、ダムコンクリートに使用しているJIS規格Ⅱ種品ではなく、現状産廃処理されているJIS規格外品を対象として、成瀬ダムでフライアッシュを有効活用すべく検討を行うこととした。
- 試験をした結果、フライアッシュCSGは、従来のCSGと同等の強度特性が得られるだけでなく、経時変化による密実性が従来のCSGよりも向上し、従来のCSGと同等以上の品質を確保できることを確認したため、実装に至った。

○試験

（基本）		（内割）		（内割+外割）
水		水		水
セメント		セメント		セメント
		フライアッシュ		フライアッシュ
ＣＳＧ材		ＣＳＧ材		フライアッシュ
				ＣＳＧ材



FA配合

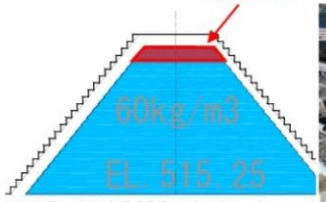


基本

規格外フライアッシュCSGの打設報告

フライアッシュを用いたCSGの製造方法（Ａライン ⇒Ｃラインの順で材料を流して製造）

堤体高標高横断図



150LF、151LFCSGは8,200m3
そのうち
フライアッシュCSG 7,250m3分
(C40＋FA60)
…室内試験の結果より設定

セメント 347t
規格外FA　435t(セメント145t分減)
（納入可。ただしこの時期は
Ⅱ種が納入できない）

150LFのスタートからフライアッシュCSGを打設
151LFの残り950m3でフライアッシュCSGは終了し、
残りはC60のCSGで打設した。





フライアッシュCSG製造状況

コスト縮減【今後の検討項目一覧】

番号	種別	区分			検討項目	検討内容
		段階	コスト	工程		
①	堤体工事	施工	○	○	取水設備上屋の構造変更の検討	・床版の構造変更に伴い、鉄筋コンクリート造から工期短縮のため鉄骨構造に変更可能か検討。
②	堤体工事	施工	○		赤滝プラントヤード仮設備の基礎を存置	コンクリート基礎の存置を検討。
③	貯水池整備	計画	○		伐採木（枝葉）のチップ化再利用検討	・産廃処分としていた枝葉については、現地でチップ化し場内再利用することを検討。
④	貯水池整備	計画	○		貯水池内構造物の残置（県協議）	・現計画では撤去を予定していた仮設備の基礎コンクリートについて、地山(法面)の安定性確保のため残置することで撤去費用を縮減。
⑤	貯水池整備	計画	○		網場の水中アンカーブロックの仮設備活用	・網場の水中アンカーブロックについて、当初は新規にブロックを造成する計画であったが、仮設備のホッパ基礎を活用することにより係留環(けいりゅうかん)の設置のみとし、施工費用を縮減。
⑥	堤体工事	施工	○	○	減勢工左岸の盛土形状の見直し	・左岸減勢工の盛土高の見直し（EL453→439） →盛土量66,000m3の縮減の見込み＋排水系統の縮小の可能性。
⑦	堤体工事	計画	○	○	フーチングの手摺について検討	・堤体下流のフーチングに設置する手摺を耐雪タイプから、維持管理が容易なワイヤータイプへの変更を検討。

※今後想定される項目を抽出したものであり、現場条件等により変更する場合がある。

コスト縮減【上部機関におけるバックアップ体制充実】

○東北地方整備局では、事業費増や工期延長のリスクを低減することを目的に、事務所における事業監理のとりくみをさらに強化・徹底するとともに、整備局（河川部）に令和３年から「東北地方整備局建設ダム等マネジメント会議」を設置(第２回 R4.12.5～7)。整備局としても事業監理の体制を充実。
○**令和６年度からは国土交通本省の事業監理ヒアリングに変更し、更に事業監理の体制を強化。**

● 事業監理ヒアリング

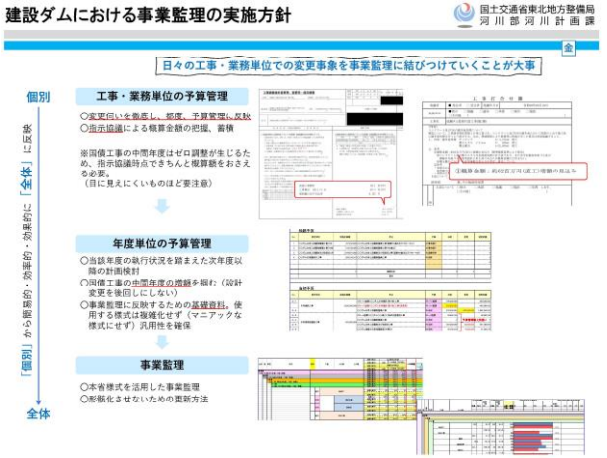
○目的
　東北地方整備局が施行する建設ダム等事業の事業費増や工期延長のリスクを低減し、合理的に進めるため、事業監理に関する内容について確認、助言することを目的とする。

○メンバー
　河川部長、 河川調査官、河川情報管理官、
　河川保全管理官、河川計画課長、河川工事課長、
　河川管理課長、各建設ダム事務所長
　その他必要に応じて（機械、電気、建築等）

○開催頻度
　1回／年を基本とする。なお、個別の懸案等が生じた場合は必要に応じて開催。

○議事
　事業の進捗状況、事業費、工期、課題、地域振興等幅広いテーマについて、事業の状況に応じて議論

●事業監理



●事業監理ヒアリングの実施状況



技術開発・品質確保の取り組み【成瀬ダムCSG施工技術委員会】

【委員会の目的】

- 日本最大級で、堤高100mを超える台形CSGダムの施工・品質管理手法や新技術に関して指導・助言をいただき、成瀬ダムの円滑な工事進捗に資することを目的に平成30年度に設立。これまで、「本体工事の施工状況」、「確認試験実施状況」、「品質管理記録」等について説明を行い助言をいただいている。

【成瀬ダムCSG施工技術委員会　委員名簿】

	氏名	所属・役職
委員長	河野　広隆	京都大学 経営管理大学院 客員教授
委員	久田　真	東北大学大学院 工学研究科・工学部 土木工学専攻 基礎構造材料学講座　建設材料学分野　教授
委員	石田　哲也	東京大学大学院 工学系研究科社会基盤学専攻 教授
委員	吉田　等	一般財団法人 ダム技術センター　ダム技術研究所長
委員	金銅　将史	国土技術政策総合研究所　河川研究部 河川構造物管理研究官
委員	林　雄一郎	東北地方整備局　河川部長
委員	安部　剛	東北地方整備局　成瀬ダム工事事務所長

（敬称略、委員・所属・役職は、R6年8月時点）





【成瀬ダムCSG施工技術委員会　開催経緯】

	年月日	開催場所	議事	主な意見
第1回	H30.11.26	ホテルブラン、ダムサイト	・委員会設立趣旨、規約確認、委員長選出 ・成瀬ダムの概要、堤体工事及び原石山工事の状況、確認試験結果の概要（発注前試験含む）	・設立趣旨及び規約について了承された。 ・コンクリート骨材の購入材は、今後も受け入れ検査を十分に行うこと。
第2回	R1.10.1	ホテルブラン、ダムサイト	・委員構成（委員追加）、前回委員会の議事概要 ・成瀬ダムの概要及び工事の進捗状況、堤体工事及び原石山工事の状況（母材採取状況等）、確認試験の実施状況	・確認試験における「ブルドーザ転圧仕様の確認」、「CSG経時変化試験」、「CSG転圧完了許容時間」は、関連性が高いと考えられるため、材料の品質に配慮して整理が必要である。 ・ダンプからCSGを降ろした際、降ろしたCSGが塊になる等、様々な状態があることを想定して試験を行うこと。現場が急速に変わっていくため、年1回と決めるのでなく、現場状況に合わせて委員会の開催を検討すること。
第3回	R4.2.8	Web会議	・委員構成（委員長選出）、前回委員会の議事概要 ・本体工事の進捗状況及び品質管理記録、確認試験の実施状況	・委員互選により、河野委員が委員長として選出された。 ・自動化施工に関し、行った工夫・品質確保のために現場で行っている工夫について資料に残しておくことが重要。
第4回	R4.9.16	ホテルブラン、ダムサイト	・前回委員会の議事概要 ・本体工事の進捗状況及び品質管理記録、確認試験の実施状況	・現場で試行している「画像解析による粒度測定」は、精度管理や測定頻度に関して最も適した方法を検討し、CSG打設全体の品質向上に寄与するシステムとすることが望ましい。 ・「フライアッシュの活用」に関する確認試験を計画しているが、CSGの混和材としてフライアッシュを活用することができれば、施工性・品質の観点等から大きなメリットとなる。なお、CSGの強度・経時変化の改善を確認出来る試験とすることが望ましい。
第5回	R5.8.2	ホテルブラン、ダムサイト	・前回委員会の議事概要 ・本体工事の進捗状況及び品質管理記録、確認試験の実施状況	・CSGの転圧を無人化で施工した場合と有人で施工した場合では生産性の向上に加えて、安定した品質の向上が見込まれるため、それに応じたとりまとめを行うこと。 ・今日まで進めてきた打設進捗データや品質管理データのトレーサビリティをCIMやGISなどにまとめ、DX化をすること。
第6回	R6.8.21	ホテルブラン、ダムサイト	・前回委員会の議事概要 ・本体工事の進捗状況及び品質管理記録、確認試験の実施状況	・自動化施工と有人での施工箇所を比較し、CSGの転圧に差異が無いか取りまとめること。 ・水分量を抜き取りから連続監視にした事による効果を定量的に整理すること。 ・JIS外フライアッシュをCSGに活用するにあたり、品質を確認すること。

成瀬ダムにおけるカーボンニュートラルのとりくみ

国土交通省　東北地方整備局
成瀬ダム工事事務所

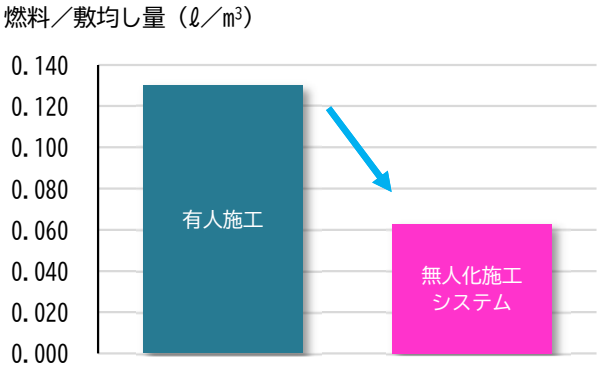
○成瀬ダムは、建設段階と維持管理段階のトータルでカーボンニュートラルを目指しています。
○建設段階においては、材料・機械・施工方法をトータルで改善しCO2排出を削減。
○維持管理段階においては、管理庁舎等にLED照明を使用するなど省エネルギー化を推進しCO2排出を削減。更に、水力発電（秋田県）により再生可能エネルギーを創出し、事業全体でカーボンニュートラルを目指します。

■ 自動化施工システムによるCO_2抑制【建設】

○施工者が導入した自動化施工システムにより、施工の各段階の効率化が図られ、単位時間あたりの打設量の増大、建設機械の走行距離が短縮が可能。これにより燃料使用量の減少＝CO_2排出量を抑制しています。



堤体ＣＳＧの打設状況



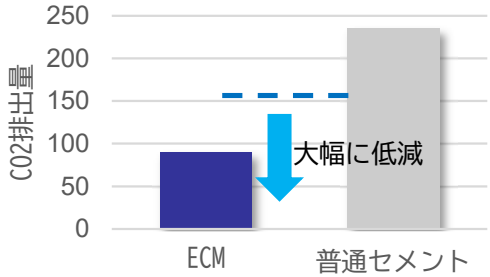
ＣＳＧまき出し作業1m³あたりの燃料使用量
（鹿島建設WEBサイトより引用）

■ ECMコンクリートの適用【建設】

○成瀬ダムの堤体コンクリートの一部にECM(Energy CO_2 Minimum)コンクリートを採用しています。
○ECMコンクリートは一般的なコンクリートに比べ製造時のCO_2排出量を大幅に低減するコンクリートです。



ECMコンクリート打設の様子



製造時のCO2排出量
（鹿島建設WEBサイトより引用）

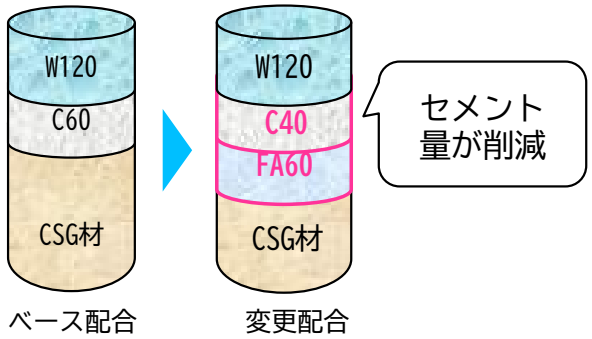
■ CO_2を固定化したコンクリート側溝の試用【建設】

○グリーンイノベーション基金（ＧＩ基金）事業において開発したセメント製造段階のCO_2を削減するカーボンリサイクルセメントを利用した側溝を設置。従来のコンクリート製品と同等の強度や耐久性等を確認しています。





■ JIS規格外フライアッシュの活用【建設】



配合のイメージ



環境保全の取り組み

・成瀬ダムでは、周辺の良好な自然環境と共存するダムづくりを推進するため、成瀬ダム周辺の環境影響について環境影響評価を行い、工事に当たっては、環境保全対策等の検討内容に沿って周辺の自然環境に配慮し事業を進めています。また、試験湛水を令和8年度から実施予定であることから、ダム完成前後の水質や生物等のモニタリング調査計画の作成及び調査を行っています。
・具体的な調査や保全対策の実施に際しては、個別分野毎に専門の有識者からの指導・助言を得ながら環境保全の検討・対策を行っています。
・本年度の環境モニタリング結果や次年度以降の調査、保全計画等について助言を得るため、「成瀬ダムに係るイヌワシ・クマタカ調査委員会」、「成瀬ダムモニタリング部会」を開催し、ご意見をいただきながら事業を進めています。
・**イヌワシ・クマタカ調査委員会において、委員から「令和6年度の工事による繁殖活動への影響はなかったと判断される」とのご意見をいただきました。**
・**モニタリング部会において、委員からご審議いただき、本年度のモニタリング調査結果と次年度のモニタリング調査計画に了承いただきました。**

ナベクラザゼンソウ



クマタカ



イヌワシ



ヒメシジミ



サクラマス（ヤマメ）



モニタリング部会



イヌワシ・クマタカ調査委員会



[DX]ダム堤体打設の自動化による「現場の工場化」

国土交通省　東北地方整備局
成瀬ダム工事事務所

○**成瀬ダム堤体打設工事**では、建設機械の自動化システム「A4CSEL®」※1を導入し、熟練オペレーターの操作分析を基にプログラミングされたブルドーザや振動ローラ、ダンプトラックによる自動化施工を実施。
○現場から400㎞離れた神奈川県の実験フィールドの3名のITパイロットが、３機種14台もの自動化建設機械を昼夜連続で管制。
○ＩＴ等異分野との技術融合により、苦渋作業の解消、安全性の向上、省人化等建設業が抱える様々な課題に対応。



自動化施工を管制するITパイロット



①CSG運搬（ベルトコンベア、SP-TOM※2）
CSG製造プラントで製造されたCSGは、ベルトコンベア、SP-TOMでダムまで運搬します。



②CSG運搬（自動ダンプトラック）
自動ダンプトラックにより打設を行う場所までCSGを運搬します。



③CSG敷均し
1層25㎝の厚さになるように自動ブルドーザで敷均します。これを3回繰り返して75㎝に敷均します。



④CSG締め固め（転圧）
CSGを75㎝(3層）敷均した後、自動振動ローラで締め固めを行います。この工程を繰り返して成瀬ダムを建設していきます。

※1 ㈱鹿島建設の登録商標
Automated/ Autonomous/Advanced/ Accelerated Construction system for Safety, Efficiency, and Liability
※2
Special Pipe Transportation Method：パイプを回転させることで材料分離させずに品質を保ったまま自重で高所から低所へ連続搬送する手法

※令和６年度は、③④の工程で自動化施工を行いました。

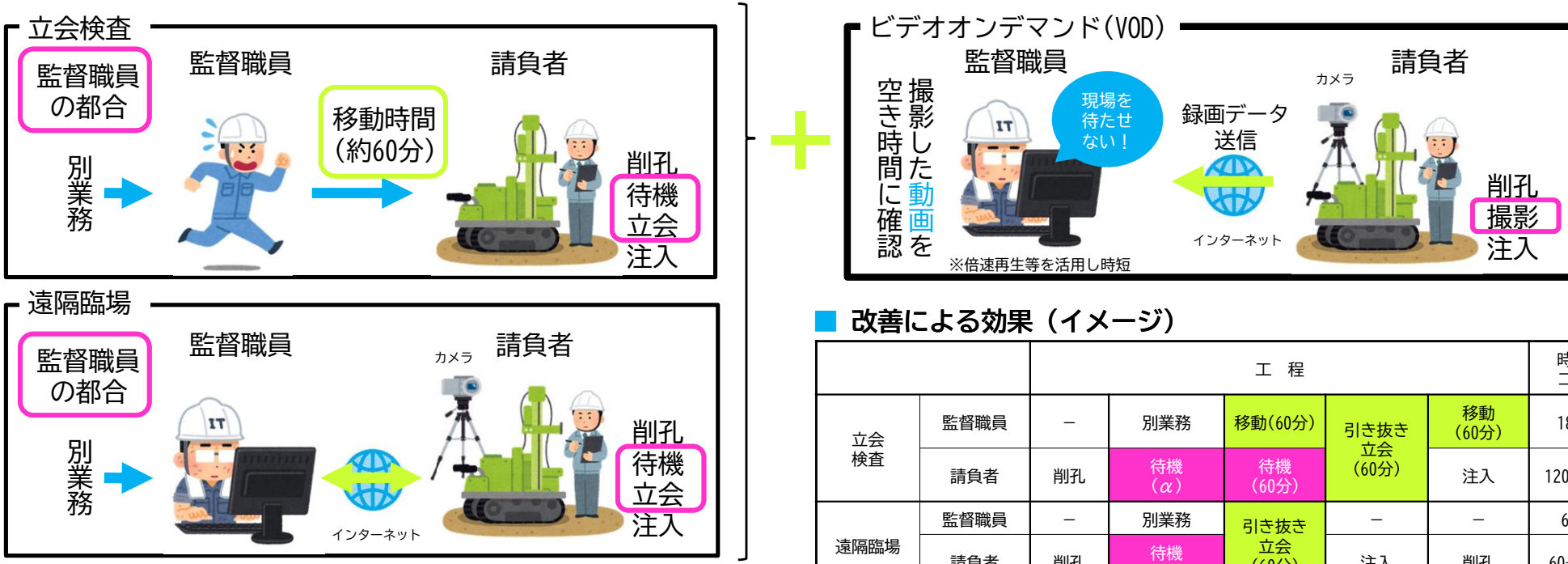
[DX]ビデオオンデマンド化による生産性向上(試行)

国土交通省 東北地方整備局
成瀬ダム工事事務所

○基礎処理のボーリングの検尺については、特記仕様書の段階確認において穿孔完了時に穿孔長の検測を行うことが規定されており、これまでは監督職員が（遠隔を含む）臨場確認を実施。
○成瀬ダムにおける基礎処理のボーリング本数は約4,600本、延長は約152,000mと膨大であり、かつ、ボーリングの検尺は、ロッド引き抜きを監視し、その後、延長を確認することから確認そのものに時間を要する。（１日複数回の立会を行う場合も）また、少ない人員で監督業務を担当しているため監督職員の都合によっては、現場で「待ち」が発生、円滑な工事進捗に影響を与える可能性がある。
○監督職員の検尺に要する時間（移動、引き抜き）を短縮するとともに、臨場検査等による現場（受注者）の「待ち」を最小化するため、立会検査、遠隔臨場に加え、業務の効率化のためビデオオンデマンドによる確認も可能とすることとした。（受発注者双方の業務効率化）
○引き続き、展開可能な工種を検討し、成瀬ダム建設事業全体の生産性を向上に努める。

※発注者支援を含めても人的リソースには限界がある。
※既存の机上検査より目的の達成度は遠かに高い。

■ 現状とビデオオンデマンド検査のイメージ



■ 改善による効果（イメージ）

		工程					時間的コスト
立会検査	監督職員	－	別業務	移動(60分)	引き抜き立会(60分)	移動(60分)	180 分
	請負者	削孔	待機(α)	待機(60分)		注入	120+α 分
遠隔臨場	監督職員	－	別業務	引き抜き立会(60分)	－	－	60 分
	請負者	削孔	待機(α)		注入	削孔	60+α 分
ビデオオンデマンド	監督職員	－	別業務	空き時間に確認（倍速等を活用）			15 分
	請負者	削孔	引き抜き撮影(60分)	注入	削孔	引き抜き撮影(60分)	60 分

▲次の作業に着手可能！

[DX]画像解析(AI)を活用したCSG品質管理合理化の取組み

国土交通省 東北地方整備局
成瀬ダム工事事務所

○成瀬ダム堤体打設工事では、堤体を構成するＣＳＧ材の粒度の管理はふるいによる従来法で行っていた。
○従来法は、人力により1回/h（施工初期）の頻度で測定を行っており、品質管理に多大な労力と時間を要していた。また、大量かつ連続して製造されるＣＳＧを１回／時間の頻度で代表しきれるのかと言う懸念があった。
○粒度管理にＡＩを用いたＣＳＧ材粒度画像解析を採用し、従来の抜き取り確認に対して連続監視が可能になり、「きめ細やかな品質管理」と「試験にかかる苦渋作業の削減」を可能とした。
○ＡＩを用いたＣＳＧ材粒度画像解析によるＣＳＧ粒度管理の正式採用は全国初であるとともに、実装した実績は後続のダムや同様の品質管理が必用な多くの工事の参考となる。

現状の課題

- 「ひし形理論」を適用する上で、**粒度・表面水量の測定は必要不可欠**。
- **人力により1回/h（施工初期）の頻度**で実施。
- 品質管理に**多大な労力と時間を要している**。

成瀬ダムにおける粒度・表面水量連続監視
「試験にかかる苦渋作業の削減」

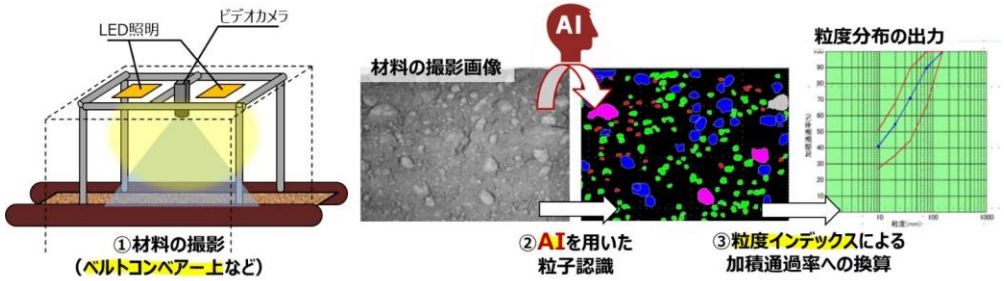
画像解析による
粒度の連続監視

＋

近赤外線水分計
による表面水量
の測定※

品質管理を自動化した管理システム*の構築

＊「PRISM（官民研究開発投資拡大プログラム）｜内閣府」に採択。





▲近赤外線水分計による表面水量測定※



▲ＡＩによる粒度画像解析

※近赤外線水分計による表面水量測定は実装に向け検討中

事故防止等工事安全管理の取り組み

成瀬ダム工事事務所では、施工現場における労働災害防止の一環として、「成瀬ダム工事事務所事故防止対策委員会」を設置し、令和6年度の事業計画を立て「重大災害ゼロ」・「予定外作業・省略行動」の徹底排除を事故防止目標に取り組みを実施。

実施年月日	実　施　内　容	備　考
R6.6.27	【第1回　安全パトロール】 ・成瀬ダム庁舎建築工事	国：13名 受：24名(20社) 計37名
R6.7.30	【事故防止対策委員会　総会】 ・令和５年度の事業経過報告 ・令和６年度の事業計画(案) ・事例発表 ・安全決意宣言	国：16名 受：38名(33社) 労：1名 計55名
R6.10.1	【第2回　安全パトロール】 ・成瀬ダム提体打設工事(第2期)	国：13名 受：24名(21社) 計37名
R6.11.6	【第3回　安全パトロール】 ・成瀬ダム取水設備新設工事	国：10名 受：28名(20社) 計38名
R7.2.25	【臨時安全パトロール①】 ・成瀬ダム提体打設工事(第2期)	国：6名 受：5名(2社) 計11名

労：労働基準監督署　国：国土交通省　受：受注者

安全パトロール点検状況
（成瀬庁舎建築工事



令和6年6月27日

安全パトロール点検状況
（成瀬ダム取水設備新設工事）



令和6年11月6日

安全パトロールの成果（成瀬ダム庁舎建築工事　令和6年6月27日）

改善前



足場階段で1段の高さが高い箇所あり。

改善後



仮設階段と手摺を設置し、転落する可能性を低くした。

事故防止等工事安全管理の取り組み

令和7年度　成瀬ダム工事事務所　事故防止目標（案）
重大災害ゼロ！「予定外作業・省略行動」を根絶！
物損公衆災害防止の推進！

東北地方整備局の目標である**「死亡災害ゼロ！労働災害が多い「予定外作業」「省略行動」を根絶！物損公衆災害防止の推進！」をするとともに**、成瀬ダム工事事務所発注の工事、並びに調査・測量・設計業務の実施に伴い発生する事故を未然に防止し、人的、物的損害を防ぎ、円滑な事業進捗を図るために次の活動を行う。
また、昨年度発生した工事事故に加え、本年度の新規作業（管理設備工事など）で多くの工事が輻輳する箇所や大型クレーン作業時において、重大災害の発生リスクの高い作業を対象に、更なる安全対策に取り組みます。

〇重点対策を実施する作業
・設備点検整備作業、高所作業、夜間作業、場内通行、坑内作業、重機作業、屋内作業、狭小作業

1．安全パトロールの実施
1）委員会は、原則として年3回程度（おおむね6月・8月・10月）の安全パトロールを実施する。なお、工事の施工状況等を踏まえ、適宜見直すものとする。
2）安全パトロールの実施にあたっては、必要に応じて労働基準監督署又は警察署等関係機関の指導（講話等）を受ける。
3）安全パトロール終了後は検討会を行い、問題等を討議し情報の共有を図るとともに、問題箇所の改善を図りその実施結果をとりまとめ、その都度、会長に報告する。
4）安全パトロールの実施内容は、令和7年4月14日付け企画部長通知「令和7年度東北地方整備局事故防止対策方針について」に基づき対応する。
5）成瀬ダム工事事務所幹部職員による「抜き打ちパトロール」の実施や成瀬ダム工事事務所職員による「臨時安全パトロール」を実施する。

2．安全教育の実施
安全意識の高揚を図るため、次のとおり実施する。
1）安全旗を現場に掲揚する。
2）東北地方整備局からの事故発生状況等、安全に関する資料を配付し、事故防止に努める。
3）成瀬ダム工事事務所における工事事故の情報を共有するとともに、注意喚起を行う。
4）時間外労働時間の上限規制及び4週8休の適用に伴い現場作業時間が短くなることによる事故を防止するため、余裕を持って施工できるよう適切な施工期間確保に努めるとともに、工事工程調整を密に行うなど、安全対策に取り組んでいく。
5）通勤中を含め、一般道走行（冬期も含む）に関して法令遵守、地域住民の生活環境に配慮したルールの徹底等、交通安全について注意喚起を行う。
6）冬期作業（除雪等）にあたり、降雪期前の支障物確認の徹底について注意喚起を行う。

3．工事・業務等の安全表彰等
1）規約第2条の目的を達成するため、他の模範となる現場代理人等を表彰し、安全意識の高揚を図る。

4．その他
1）各現場との安全管理、交通管理、作業員の体調管理等に関する意見交換を実施する。
2）工事事故の発生が多い受注工事については、重点的に指導を行い、具体的な改善策を求める。



事故防止対策委員会総会
（令和6年7月30日開催）

広報活動 （令和6年度 見学会の実施状況）

国土交通省 東北地方整備局
成瀬ダム工事事務所

○令和６年度は、堤体（ＣＳＧ）打設最後の年であることから、「自動化施工は見納め」をキャッチフレーズに見学会等を中心とした広報を実施。また、建設業における残業規制の猶予期間終了、４週８休化に応じた見学コンテンツを企画。
○建設中である事を最大限活用し、超大型重機が往来する現場内を職員のガイドで循環する「アドベンチャーバスツアー」（平日１回/月＋土曜１回/月）や「夜の現場見学会」（2回/年）を開催するなど、参加者の立場に立った見学会を展開。
○見学会は、令和５年度まで実施していたアドベンチャーバスツアー等に加え、夏休み自由研究応援企画　こども見学会を実施。

■「今だけ」「ここだけ」の“レア体験”成瀬ダムへ冒険に出かけよう！　なるせダムアドベンチャーバスツアー 2024

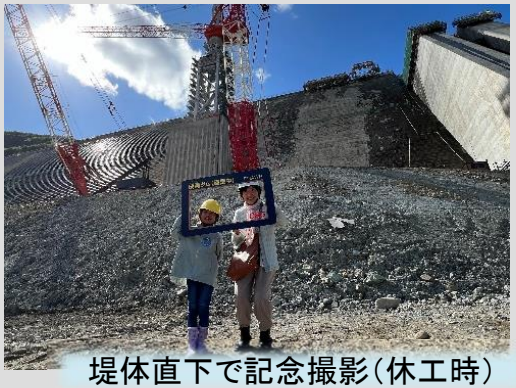
参加者 約450名

超大型のダンプカーとすれ違ったり、堤体打設工事の自動化施工、原石山での原石採取など、通常は見ることが出来ない成瀬ダムが造られていく様子を間近で見学。


原石山展望台からダムを見る！


原石硬度確認


重機の展示（休工時）


堤体直下で記念撮影（休工時）

■ 上下流交流会（８月１日）

参加者 約20名

ダム流域の小学生を対象とした交流会と現場見学会



東成瀬村まるごと自然館にて

■ 夜の現場鑑賞会・見学会（５月・８月）

参加者 約130名

夕方から日暮れの時間帯からの現場見学会。


綺　麗　♪

■ 成瀬ダム秋の見学会（１０月２６日）

参加者 約70名

東成瀬村産業祭との合同の現場見学会


堤体を間近で見学！

■ 教育機関等の見学

参加者 約450名

学生等を対象とした現場見学会（10月末まで）


増田中学校見学会

人材育成　（地元建設業協会との共働）

建設業体験フェスタin湯沢翔北高校雄勝校2024への協力

○成瀬ダムは、国内最大級の台形ＣＳＧダムを自動化施工をはじめとする先端技術を活用し建設中であり、堤体打設が本格化しています。
○地元建設業の人材確保、魅力発信をテーマに、（一社)雄勝建設業協会が湯沢雄勝及び近隣の高校生を対象とした建設業体験フェスタを開催。
○地元建設業協会と連携し、建設業の現状と魅力を発信するとともに人材育成に協力しています。

■ 成瀬ダムの見学状況







■ 建設業体験フェスタ in 湯沢翔北高校雄勝校 2024

1. 日　時：令和6年7月22日(月)～26(金)

2. 概要
　1～2日目：小型建設機械講習
　3日目：現場見学会
　　1)成瀬ダム建設工事
　　（KAJIMADXLABO・原石山展望台等）
　　2)国道398号稲庭バイパス道路改良工事
　4～5日目：実務体験およびドローン操縦体験

3. 参加者
　湯沢翔北高校・同高雄勝校・増田高校・羽後高校・横手清陵学院高校の5校30名の高校生が参加

■ 参加した生徒の感想

・成瀬ダムの見学では、ICT作業の様子も見れて楽しかった。
・成瀬ダムは迫力・スケールが大きくて、感動した。
・職業選択に建設業が入る機会になった。
・建設業に対するイメージは大変で辛そうなイメージだったが、体験後はかっこよくて憧れる職業に変わった。今後の進路選択の視野に入れたいと思う。

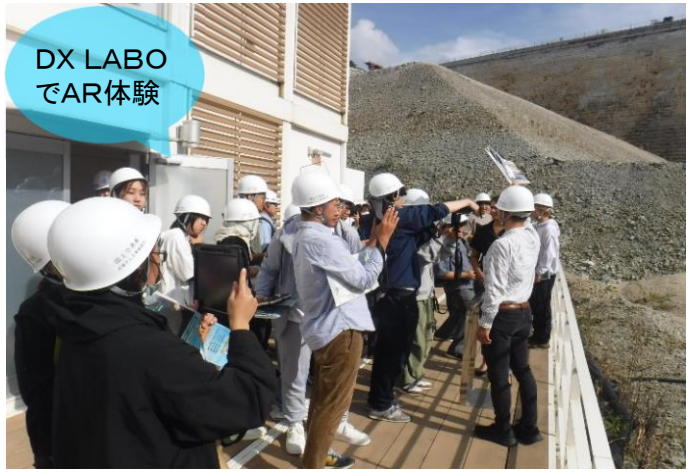
建設分野の魅力発信 -担い手確保・女性活躍-

国土交通省 東北地方整備局
成瀬ダム工事事務所

○最先端の技術を活用し、国内最大級の台形ＣＳＧダムを建設している成瀬ダムの現場は、人材育成のフィールドとして最適と自負しています。
○これまでの建設業のイメージを大きく変える成瀬ダムは、度々マスコミに取り上げられるなど高い関心を集めている。教育機関・建設業協会女性部の視察を積極的に受け入れることにより、事業の理解促進に加え、将来の建設産業を担う若い世代、女性技術者等に対し、建設分野の魅力を発信しています。
※教育機関等は、Ｒ６で１６機関４５２名が視察。（幼稚園から大学まで幅広く対応）



横手清陵学院高等学校の現場見学(R6.9.25)



秋田大学の現場見学(R6.9.27)



女性技術者（土木学会）を対象とした
オンライン見学会(R3.10.20)



増田中学校の現場見学(R6.5.17)



認定こども園こひつじの現場見学(R6.7.1)



由利建設業協会（女性部）見学会(R6.9.13)

水源地域の振興 ～ダムツーリズム～

国土交通省 東北地方整備局
成瀬ダム工事事務所

■ダム完成後も水源地域の自治体が自立的かつ持続的に発展するために、東成瀬村の地域資源とダムの魅力を掛け合わせたダムツーリズムの検討を令和２年より開始。
■この一環として、１０月１３日に、民間旅行会社が催行するバスツアーを試行。ツアーでは、東成瀬村の「紅葉きのこまつり」においてきのこ汁の振舞いと成瀬ダム工事事務所職員が案内する現場見学を実施。

☞参加人数 ： 合計110名（◇秋田発:38名、◇岩手発:36名、◇山形発:36名）
☞ツアー行程: ◇各地出発 ⇒◆紅葉きのこまつり(きのこ汁お振舞い) ⇒◆成瀬ダム見学 ⇒◇各地到着



▲募集チラシ


▲ダム見学の様子


▲ツアー参加者とのふれあい



▲直売所(きのこ汁ふるまい)

水源地域の振興　～地元連携、地域活性化の取り組み～

国土交通省　東北地方整備局
成瀬ダム工事事務所

水源地域の東成瀬村と下流受益自治体の方々が、水源地域や水の大切さ等について、互いに理解を深めることを目的に、東成瀬村の文化と歴史を体験し交流する「成瀬ダム交流会」を令和４年度から実施（今年で３回目の開催）。

■ 成瀬ダム交流会（令和６年８月１日開催）

・水源地域の東成瀬村と、下流受益自治体の湯沢市・横手市・大仙市の小学校を対象に参加者を募集し２１名が参加。
・東成瀬村のまるごと自然館を会場に、村内で発見された縄文遺跡を学びながら、勾玉づくりや火起こしなど縄文体験のほか、地元産の米や野菜を味わうなどし、交流を深めました。
・成瀬ダムの見学や大型重機の試乗体験などを行いました。
・今後も継続的に水源地域と下流受益自治体の方々の交流の輪を広げていく予定です。


勾玉づくり


火起こし体験


みんなで昼食


現場見学





縄文服を着て記念撮影



５５tダンプと記念撮影



水源地域の振興　～成瀬の森づくり～



主催：東成瀬村、成瀬ダム工事事務所

～取組みの趣旨～
桧山台の跡地整備を、地域参加型で「苗木」を育てる
☞上下流交流や再来訪、環境保全に繋げる活動
☞継続した取組みとして、桧山台跡地整備に繋げる

第3回(6月16日実施)：参加者 計41名、　第4回(10月20日実施)：参加者 計32名
計73名参加により実施。

【第3回】令和6年6月16日（日）
主な内容：幼木の採取と仮植地(森のほいくえん)への植樹


幼木の採取状況


幼木の採取状況


赤滝森のほいくえんへ移植



参加者による記念撮影

【第4回】令和6年10月20日（日）
主な内容：種子の採取と仮植地(森のほいくえん)・ポットへの植付（植付後のポットはお持ち帰り）


種子の採取状況


種子選別の様子


赤滝森のほいくえんへ移植



参加者による記念撮影

４．令和６年度事業実施状況

成瀬ダム建設事業の進捗状況

○予算執行状況

- 総事業費　約2,600億円
- 令和6年度　約286.9億円（補正予算含む）
- 令和7年度　約206.9億円（当初）
- 令和6年度迄　約1,993.0億円（進捗率約76.7%）

（令和7年3月末時点）

補償基準他	H15.3　東成瀬村（村有地）用地買収に関する覚書締結
用地取得 （312.1ha）	99%（310.8ha）
家屋移転 （11戸）	100%（11戸）
付替国道（5.3km） 付替林道（2.0km） （合計7.3km）	約99%（7.2km/7.3km） ※下流工事用道路は含まない
ダム本体及び関連工事	仮排水トンネル（100%）／基礎掘削（100%）／堤体打設（99%予定）／試験湛水
事業進捗率 （約2,600億円）	約76.7%（約1,993億円）

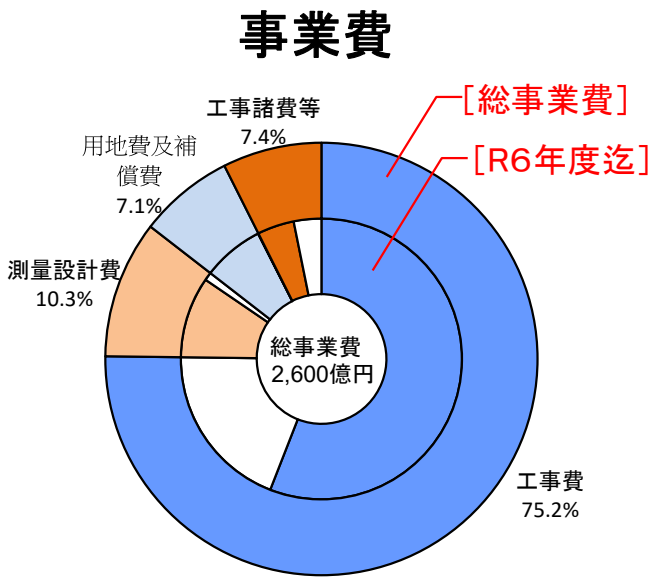
令和6年度　成瀬ダム事業費の概要

事業費の執行状況

	総事業費（億円）	R6年度迄（予定）		残事業費（億円）
		事業費（億円）	執行率	
工事費	1,954.9	1457.4	74.6%	497.5
測量設計費	267.5	242.6	90.7%	24.9
用地費及補償費	185.2	184.8	99.8%	0.4
工事諸費等	192.4	108.2	56.2%	84.2
合計	2,600.0	1993.0	**76.7%**	607.0

R6年度 の予算状況

	R5年度 当初＋補正（億円）	R6年度 当初＋補正（億円）
工事費	209.4	267.6
測量設計費	10.1	11.7
用地費及補償費	3.7	1.2
工事諸費等	6.7	6.4
合計	229.9	286.9



国土交通省　東北地方整備局
成瀬ダム工事事務所

令和6年度予算：286．9億円（補正予算含み）

《 計画貯水池平面図 》



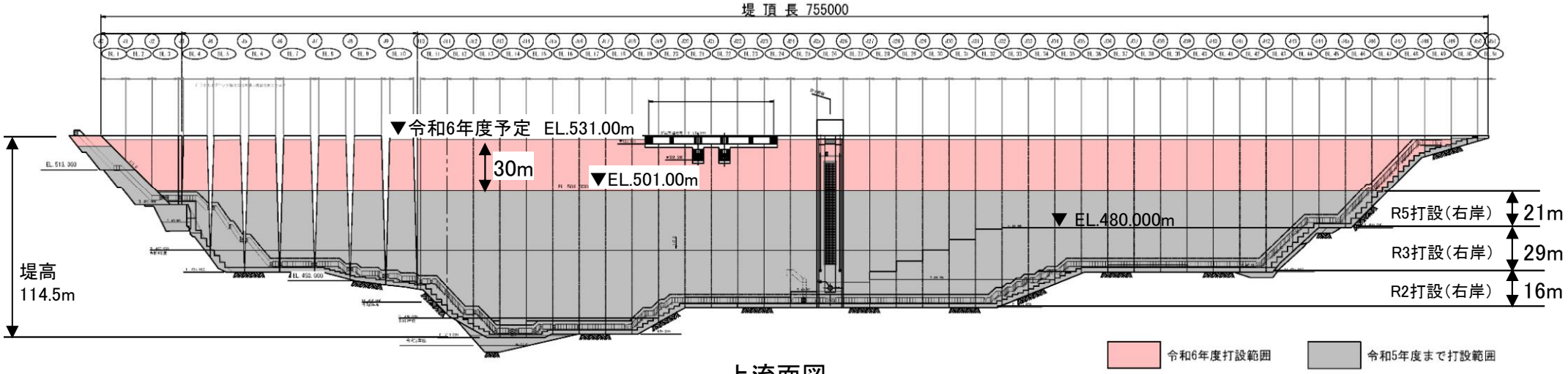
※　上記のほか、水理水文調査、環境調査の各種調査検討等を継続する。

令和6年度　実施工事

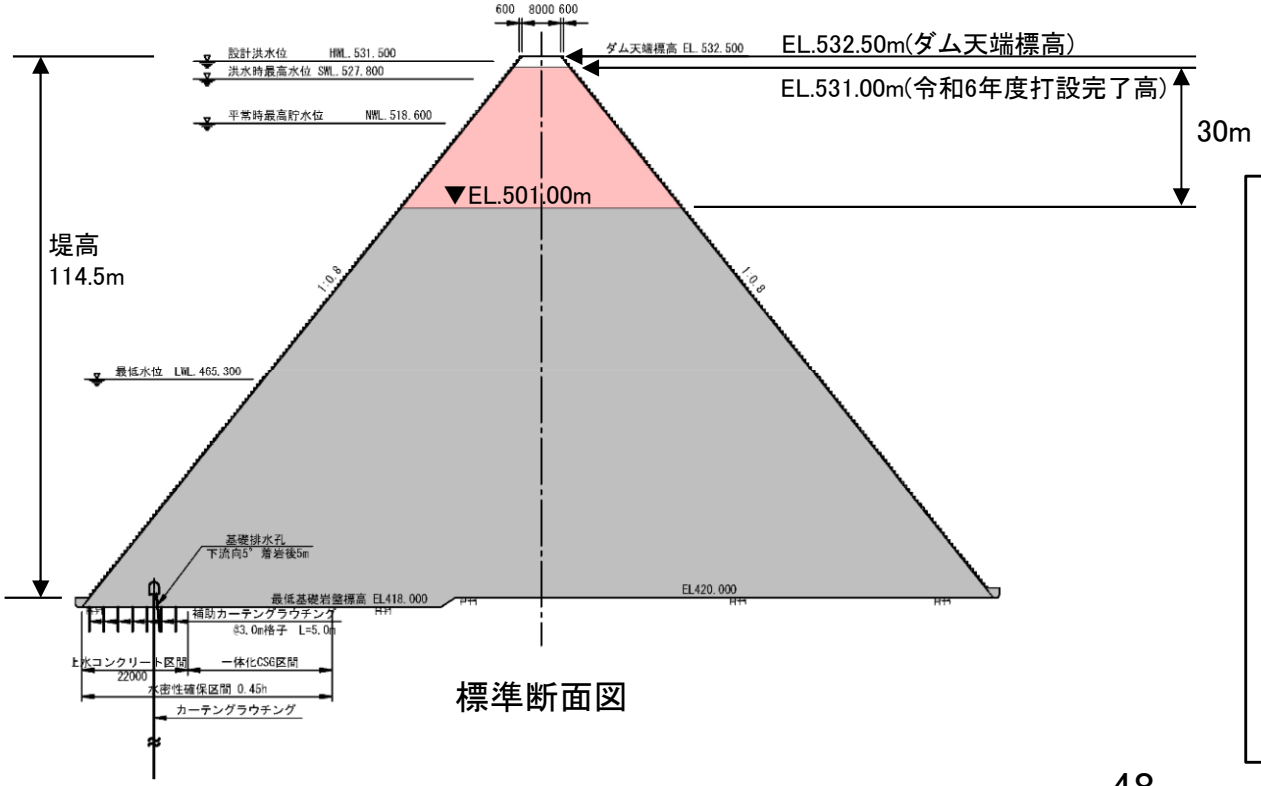
件　　名	工　　期	契約額（※）	受　注　者	工　事　内　容
成瀬ダム堤体打設工事（第２期）	令和5年6月～令和8年12月	39,446,000,000円	成瀬ダム堤体打設工事鹿島・前田・竹中土木特定建設工事共同企業体	第１期工事に引き続き、ダムの堤体を構築する工事を実施する。
成瀬ダム原石山採取工事（第２期）	令和5年3月～令和8年2月	17,589,000,000円	成瀬ダム原石山採取工事大成・佐藤・岩田地崎特定建設工事共同企業体	第１期工事に引き続き、ダムの堤体で使用する材料を採取する工事を実施する。
成瀬ダム取水設備新設工事	令和元年9月～令和7年3月	3,809,300,000円	（株）ＩＨＩインフラシステム	下流への利水補給、発電活用水を取水する設備の工事を実施する。
成瀬ダム林道付替改良工事	令和5年5月～令和6年11月	246,840,000円	（株）高嶋組	付替林道の改良工事を実施する。
成瀬ダム赤滝地区林道付替外改良工事	令和6年4月～令和7年9月	249,865,000円	（株）高修興業	付替林道、及び管理用道路の改良工事を実施する。
成瀬ダム場内整備等工事	令和6年4月～令和7年3月	141,130,000円	（株）鈴木建設工業	管理上必要な道路の維持・修繕や除雪を実施する。
成瀬ダム電源設備工事	令和5年6月～令和7年4月	149,600,000円	（株）明電舎	ダム管理用の受変電設備および発電設備等の設置工事を実施する。
成瀬ダム管理用制御処理設備工事	令和5年8月～令和7年12月	141,350,000円	（株）カナデンエンジニアリング	ダム管理用制御処理設備の設置工事を実施する。
成瀬ダム庁舎電気設備工事	令和6年5月～令和7年6月	109,340,000円	伊藤電気(株)	ダム管理庁舎の電気設備工事を実施する。
成瀬ダム管理所機械設備工事	令和5年9月～令和7年6月	177,727,000円	平鹿設備工業(株)	ダム管理庁舎の機械設備の工事を実施する。
成瀬ダム庁舎建築工事	令和6年4月～令和7年6月	511,500,000円	鹿島建設(株)	ダム管理庁舎の建築工事を実施する。
成瀬ダムCCTV設備工事	令和5年12月～令和7年4月	94,270,000円	玉川電気工業（株）	ダム管理用としてカメラ設備の工事を実施する。
成瀬ダム通信用鉄塔及び反射板工事	令和5年11月～令和7年6月	115,500,000円	日本鉄塔工業（株）	通信用鉄塔及び反射板の工事を実施する。
成瀬ダム配電線設備工事	令和6年3月～令和8年2月	269,500,000円	（株）ユアテック	ダム構内に電線、光ケーブル、配管等を敷設する。
成瀬ダム監査廊照明設備工事	令和7年3月～令和8年12月	80,003,000円	(株)大三洋行	ダム監査廊照明設備工事を実施する。
成瀬ダム放流ゲート上屋新築工事	令和6年6月～令和7年7月	139,700,000円	(株)丸臣高久建設	ダム放流ゲート操作室上屋の建築工事を実施する。
成瀬ダムエレベータ設備新設工事	令和6年9月～令和8年12月	134,200,000円	三精テクノロジーズ（株）	ダムエレベータ設備工事を実施する。
成瀬ダム多重無線設備工事	令和7年3月～令和8年12月	52,250,000円	(株)進藤電機	ダム多重無線設備工事を実施する。
成瀬ダム放流警報設備工事	令和7年2月～令和8年12月	36,597,000円	玉川電気工業(株)	ダム放流警報設備工事を実施する。
成瀬ダム取水設備製作据付工事	令和7年2月～令和8年11月	662,200,000円	（株）ＩＨＩインフラ建設	下流への利水補給、発電に活用する水を取水する設備の工事を実施する。
成瀬ダム試験湛水用ゲート設備新設工事	令和6年10月～令和8年11月	320,980,000円	（株）丸島アクアシステム	ダム試験湛水用ゲート設備工事を実施する。
成瀬ダム管理施設等工事	令和6年10月～令和7年3月	115,500,000円	（株）高修興業	ダム管理用の管路および舗装等の工事を実施する。

※令和7年3月末時点

成瀬ダム堤体打設工事　堤体打設進捗状況(R7.3月末現在)



上流面図



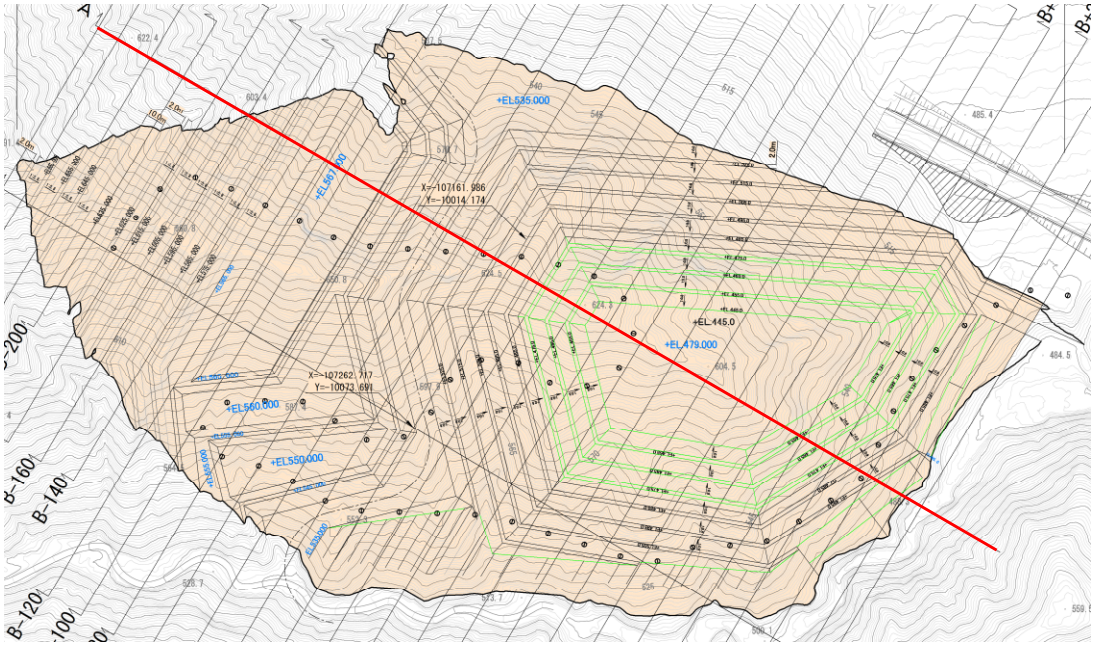
標準断面図

＜打設量＞

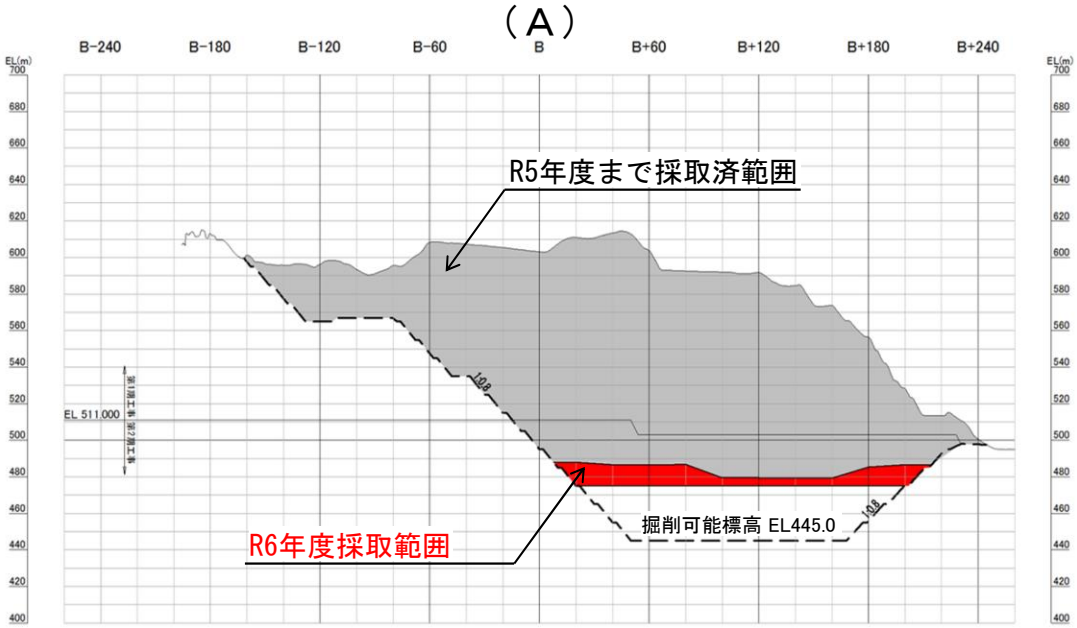
全体計画	485万m3
R6年度まで	482万m3(約99%)
R1年度計	1万m3
R2年度計	34万m3
R3年度計	82万m3
R4年度計	135万m3
R5年度計	161万m3
R6年度打設	69万m3

成瀬ダム原石山採取工事　令和6年度工事進捗状況①

原石山平面図



原石山掘削状況横断図





＜原石山採取施工進捗状況＞

全体計画【材料総量】　255万m3
（うち捨石および林道34万m3含む）

R5年度まで　225万m3

R6年度施工量　30万m3
（R6末累計255万m3 ）

R6年度進捗率 100%

※コンクリート用原石を含む。

成瀬ダム原石山採取工事　令和6年度工事進捗状況②

国土交通省　東北地方整備局
成瀬ダム工事事務所



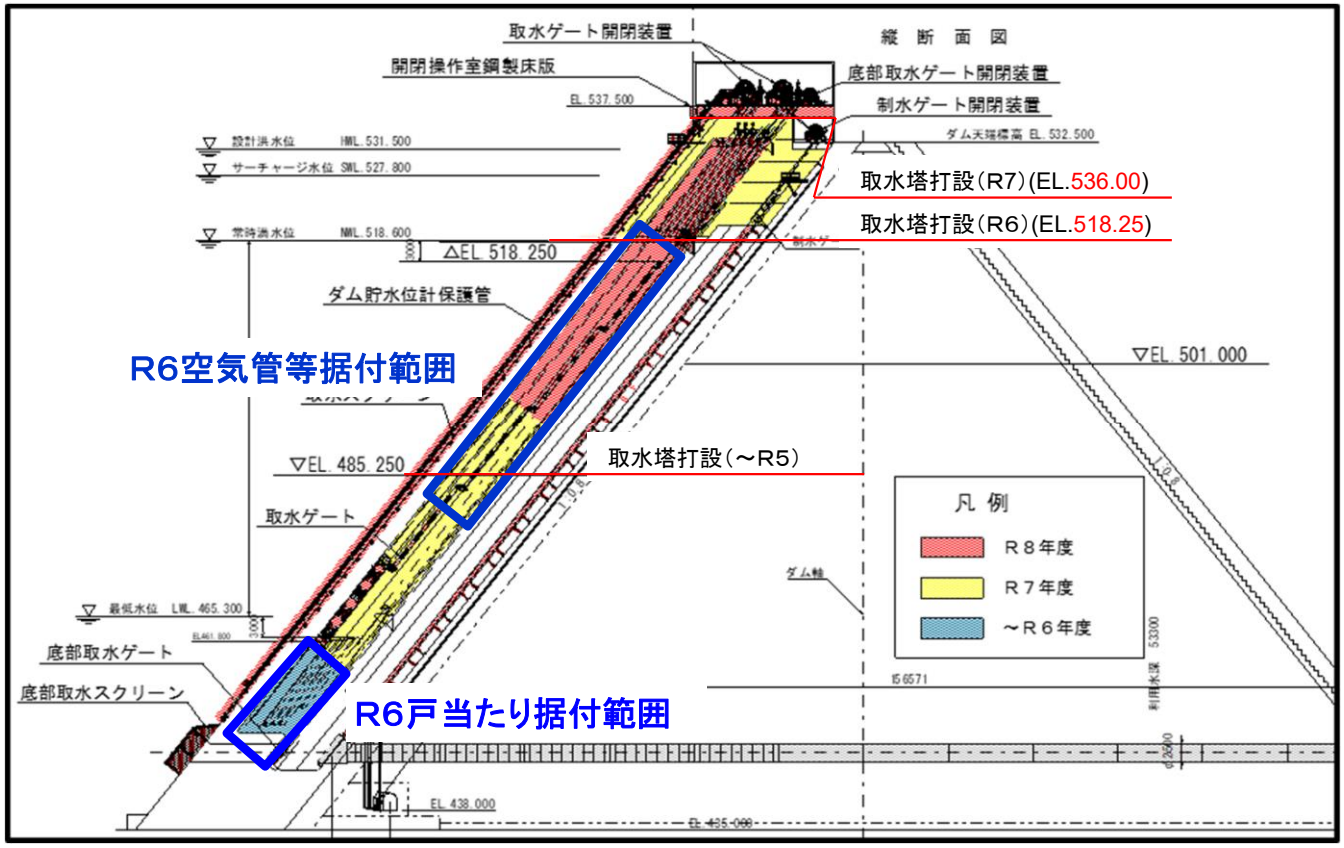
令和6年11月26日撮影

成瀬ダム取水設備新設工事　令和6年度工事進捗状況

国土交通省　東北地方整備局
成瀬ダム工事事務所

◆設備の目的：下流への利水補給
◆取水方式：選択取水（任意の水位からの取水可能）
◆取 水 量：最大18m3/s
　（但し、底部取水能力は最大46m3/s(水位がSWL時)）
◆形　　式：【取水ゲート】直線多段式ローラゲート
　　【底部取水ゲート】ローラゲート（保安ゲート内蔵）
　　【制水ゲート】サーニットゲート

令和６年度取水設備（機械）進捗：59%完了（事業費ベース）
作業内容：工場製作（鋼製床版、鋼製パネル）
　　：現地据付（取水・底部取水戸当り、空気管・水位計保護管等）



○工場製作状況（R7.1）



鋼製床版（15m×20m）仮組立

○現地据付状況（R6.10）



取水ゲート戸当たり吊り込み

成瀬ダム林道付替改良工事

国土交通省　東北地方整備局
成瀬ダム工事事務所



令和6年6月撮影

凡　例

	令和6年度まで
	令和7年度以降

林道付替道路3
L=540m

L=540m

付替国道2次供用区間

付替国道1次供用区間

旧国道342号

林道付替道路1
L=2,200m

工事用道路
L=1,200m

	既設林道
	既設林道（補償対象）（ダム湛水により水没）
	既設林道（補償対象）
	ダム貯水池

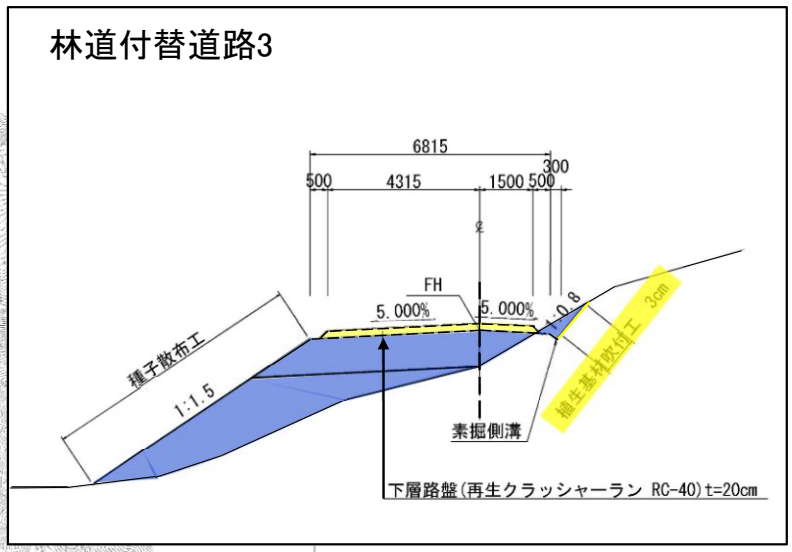
L=896m

L=401m

L=163m

林道付替道路4　L=1,460m

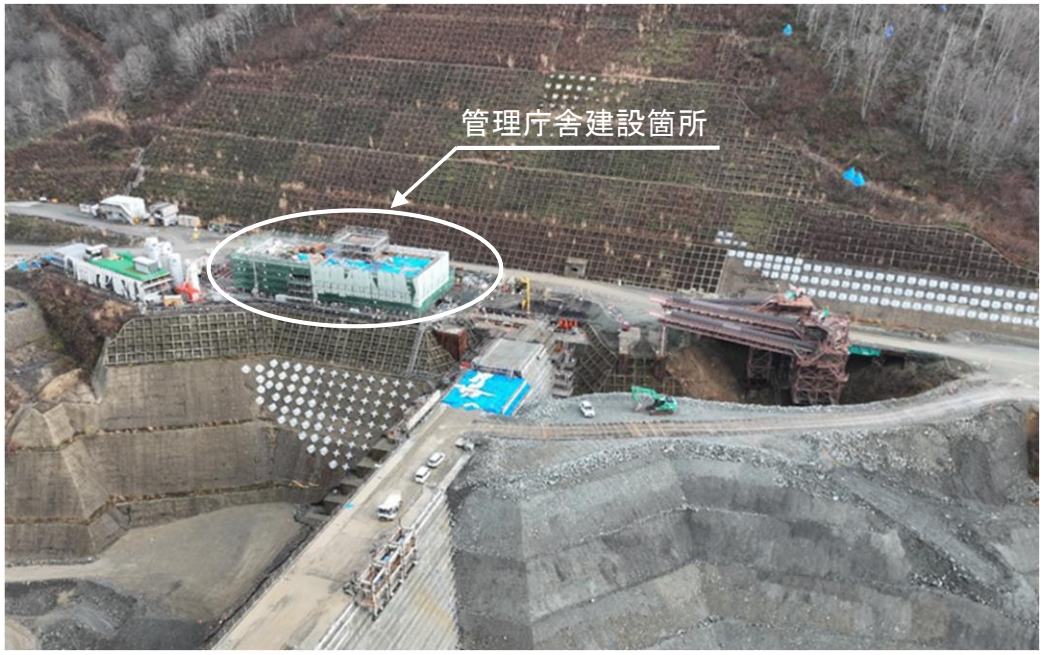
林道付替道路3



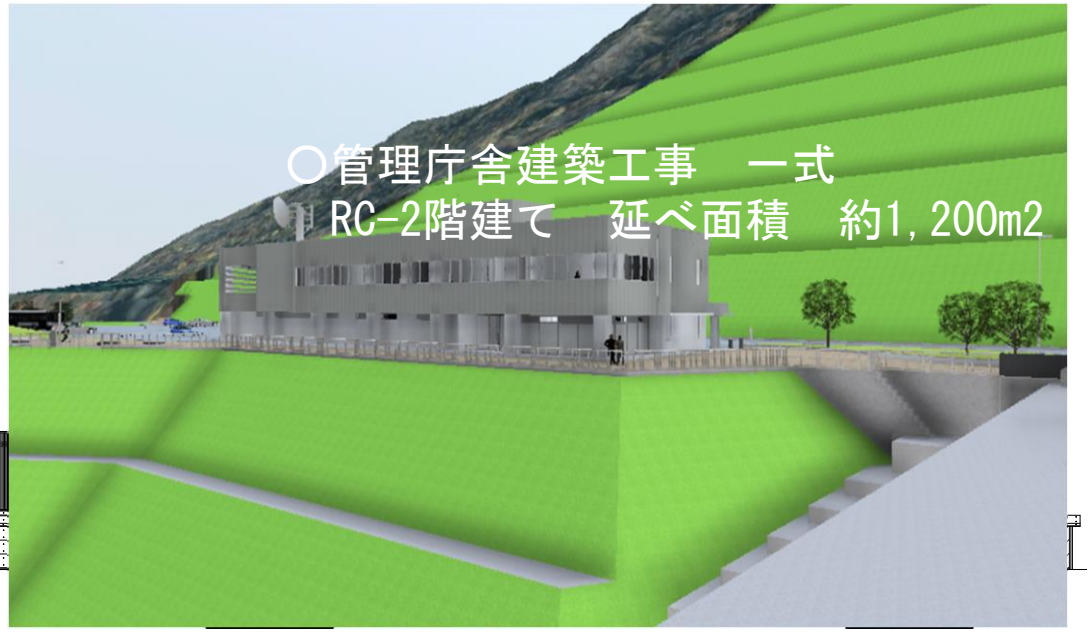


令和6年11月撮影

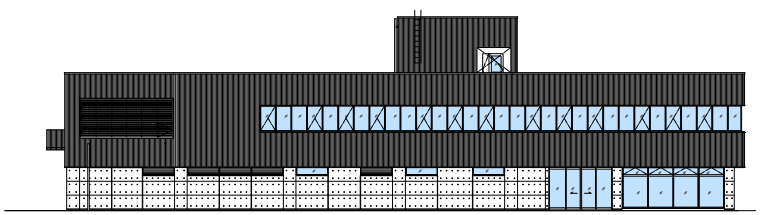
成瀬ダム管理庁舎建築工事　令和6年度工事進捗状況

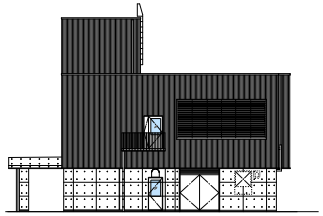


令和6年11月27日撮影



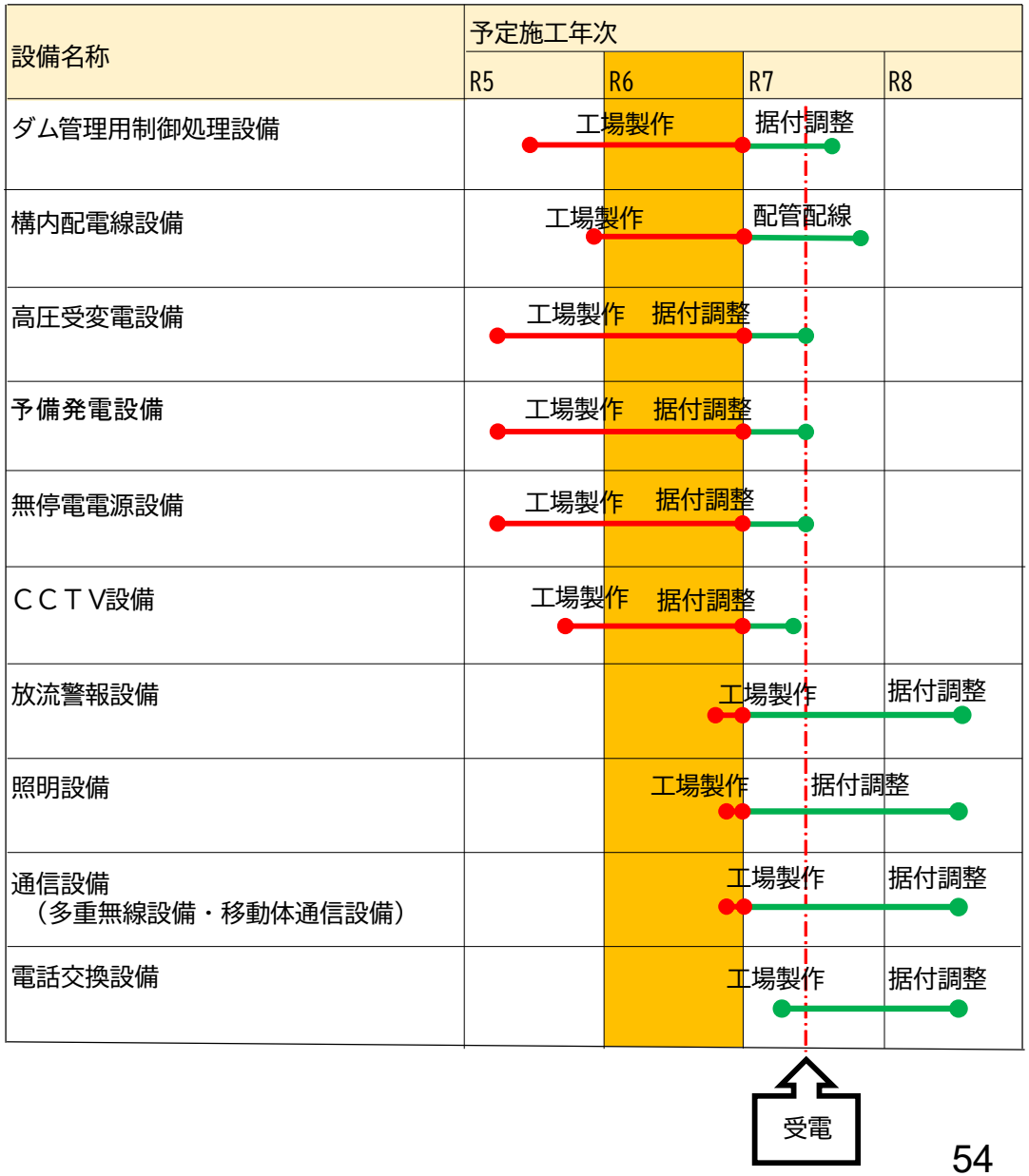
	令和5年度	令和6年度	令和7年度
建築工事	掘削	基礎・躯体 → 内装・外装	9月末
電気工事		基礎・躯体関係配管等 → 内装設備	9月末
機械工事		基礎・躯体関係配管等 → 内装設備	9月末


西立面図


北立面図

成瀬ダム管理設備

○令和６年度　実施内容
　ダム管理用制御処理設備、構内配電線設備、電源設備（高圧受変電設備、予備発電設備、無停電電源設備）、ＣＣＴＶ設備、放流警報設備、照明設備、通信設備等の工事を計画的に実施。




ダム管理用制御処理設備(工場製作)


構内配電線設備


高圧受変電設備(工場製作)


予備発電設備(工場製作)


無停電電源設備(工場製作)


CCTV設備(工場製作)

令和6年度　調査実施結果

調　査　名		箇　所	調　査　内　容
環境調査	採水、流量観測（皆瀬川合流点～ダムサイト周辺）	採水６地点 流量４地点	・工事に伴う水質への影響を把握するため、ダム上下流で採水を実施した。（月１回、高水時） ・水理水文調査の一環として、流量観測を実施した。（月１回、高水時）
	魚類調査（皆瀬川合流点～ダムサイト周辺）	３箇所	同一箇所、同一手法で年３回（春季、夏季、秋季）調査を実施した。※
	底生動物調査（皆瀬川合流点～ダムサイト周辺）	８箇所	ダム下流河川及び流入河川に生息する底生動物について、調査を実施した。※
	付着藻類調査（皆瀬川合流点～ダムサイト周辺）	６箇所	ダム下流河川における付着藻類について、調査を実施した。※
	岩盤状況調査（皆瀬川合流点～ダムサイト周辺）	６箇所	ダム湛水前の巨礫や岩盤裏側の砂礫について、調査を実施した。※
	河川物理環境調査（皆瀬川合流点～ダムサイト周辺）	３箇所	ダム下流河川の河床材料について、調査を実施した。※
	騒音振動、粉じん調査	１箇所	建設機械の稼働及び工事車両の運行等により発生する騒音振動の調査、及び粉じん等の拡散に影響を与える気象状況を把握する調査を実施した。※
	植物モニタリング	１式	移植を実施した保全対象種の９種について、定着状況を確認するための調査を実施した。※
	猛禽類調査	１式	工事実施による成瀬ダム建設地及びその周辺地域における、イヌワシ・クマタカ類を始めとする、希少猛禽類の生息・繁殖状況の調査を実施した。※
埋蔵文化財調査		１式	報告書を作成した。

※事業の影響を把握するための環境モニタリング

５．令和７年度事業計画

国土交通省　東北地方整備局
成瀬ダム工事事務所

令和7年度予算：206．9億円（当初予算）

《 計画貯水池平面図 》

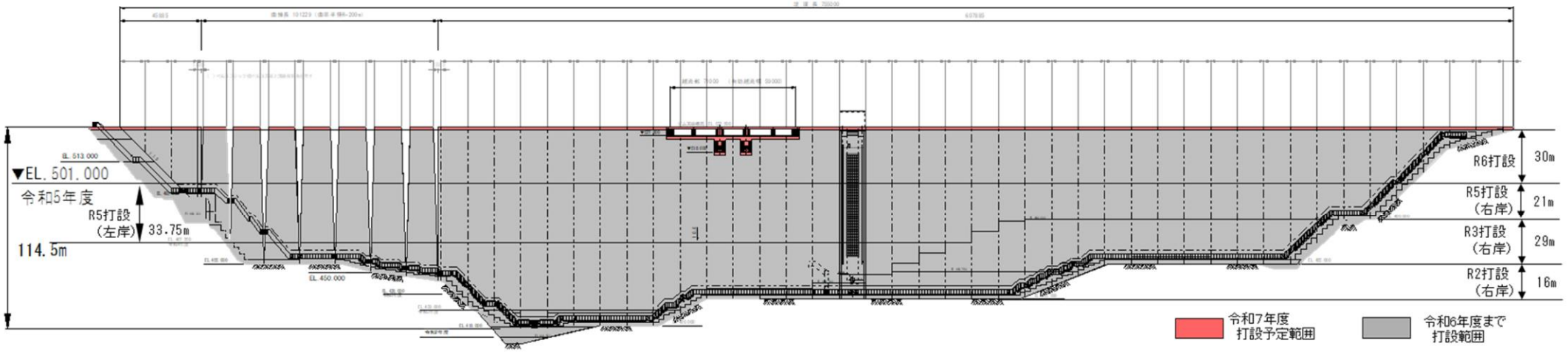


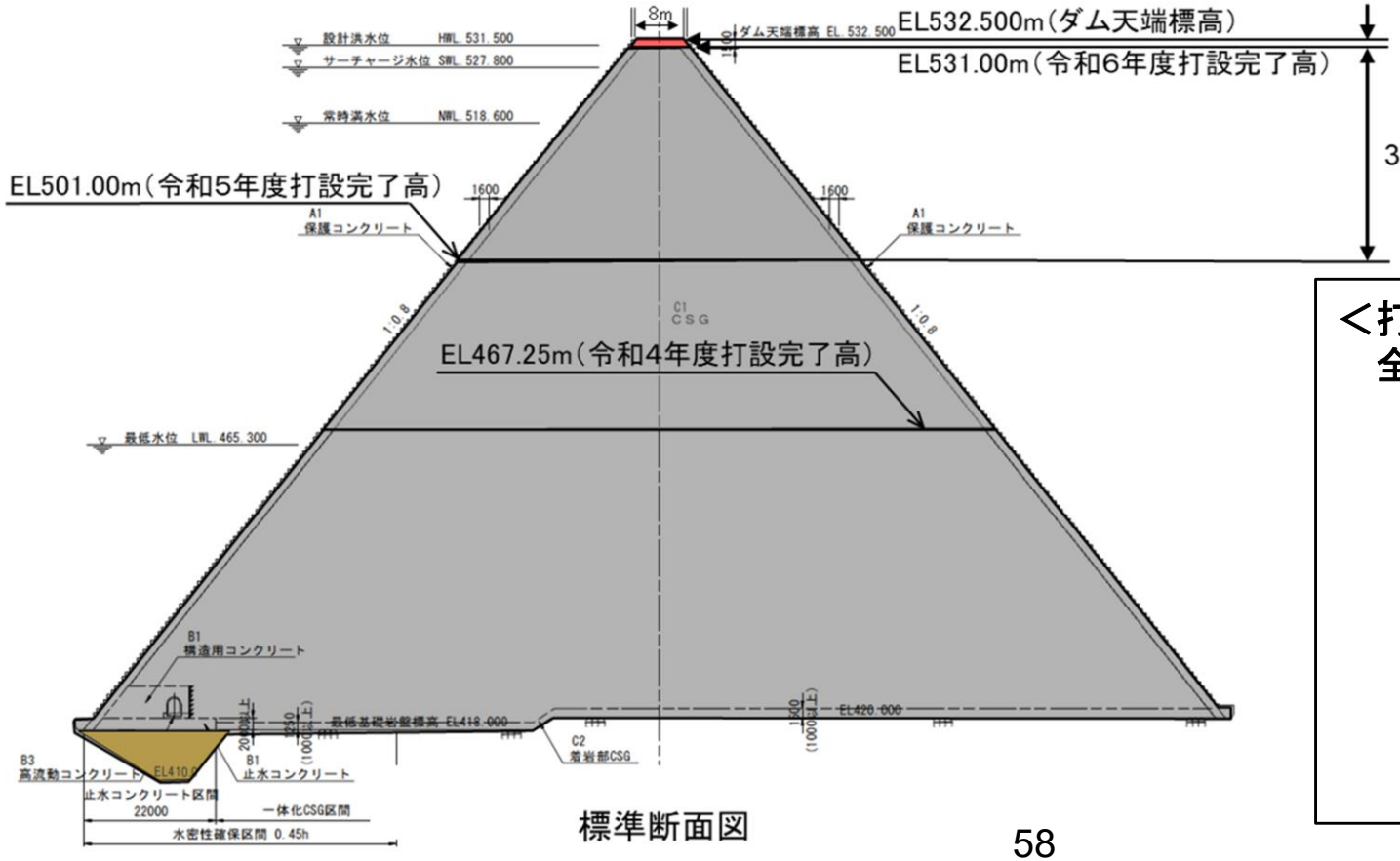
※　上記のほか、水理水文調査、環境調査の各種調査検討等を継続する。

成瀬ダム堤体打設工事　堤体打設進捗（R7.4月末現在）

国土交通省　東北地方整備局
成瀬ダム工事事務所

上 流 面 図





標準断面図

＜打設量＞

全体計画	485万m3
R7年度まで	485万m3（100%）
R1年度計	1万m3
R2年度計	34万m3
R3年度計	82万m3
R4年度計	135万m3
R5年度計	161万m3
R6年度計	69万m3
R7年度打設	3万m3

※R7年度は4月15日に打設開始